
仮面ライダーブレイド～蒼雷の剣士とけんぷファー～

鳴神 ソラ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーブレイド〜蒼雷の剣士とけんぷファー〜

【Nコード】

N8773X

【作者名】

鳴神 ソラ

【あらすじ】

本来とは違う終わりを迎えたブレイドの物語の先に剣崎一真とその仲間達と、彼と出会うケンプファーへと選ばれた少女達の物語

別サイトで投稿してる小説の修正を入れてのお話です。

プロローグ：物語の振り返り（前書き）

マリオ「と言う訳で別サイトで作者が書いてる小説投稿だ！」

フォックス「ちなみにこれ、ライプズの時期より前のお話なんだよな」

ルイージ「それでは！」

士「始まるぞ」

プロローグ：物語の振り返り

かつてその世界の1万年前、53種のアンデッドにより自らの種の繁栄をかけて行われたバトルロイヤル『バトルファイト』が行われていた。“統制者”と地球上の有機生命体とのコンタクト用インターフェイスである黒い石版・モノリスを通して管理されており、アンデッド同士の戦いで敗れた結果、戦闘不能になったアンデッドは、モノリスの力によってカードに封印されていき、最後まで封印されることなく残っていたアンデッドが勝者となる。勝者となったアンデッドには、“統制者”から地球上の全生命を自分の望むがままに変革できる“万能の力”が与えられ、その後の世界を自分の思い通りのものにできる。

そのバトルファイトでは、最終的にヒトの始祖たる不死生物・ヒューマンアンデッドが優勝し、あらゆる動植物が暮らす現代の世界がもたらされた。

だが…その一万年後にとある人間の手により再びバトルファイトが行われた。

そのバトルファイトにてアンデッドを封印する戦士『仮面ライダー』が現れ、バトルファイトを起こした人間『天王路』がモノリスを所有・管理していた為、封印される術がなかったアンデッド達を封印して行った。

そんな戦いの中、仮面ライダーの1人である青年と勝者になると地球上の全生物がリセットされるアンデッド『ジョーカー』との間で友情が芽生えた。青年はそんなジョーカーを封印したくないの人類を救う為に自らをジョーカー化した。

バトルファイトを続行させない為に青年は仲間とジョーカーから一度離れようとしたが現れた世界の破壊者と青年の親友達の手により“統制者”が有機生命体とのコンタクトを取る為のモノリスと共に“統制者”を破壊した事でバトルファイトが無くなり、離れる必要がなくなった。

青年の名は『剣崎 一真』、そんな青年はまた新たな戦いを見る事は彼は知らない。

プロローグ：物語の振り返り（後書き）

士「と言う訳でプロローグだ」

カズマ「ちゃっかりチーズ出てますね」

士「チーフだ！」

ミッシングエース1：剣士と乙女の出会い（前書き）

士」と言う訳で最初のお話だ」

シンジ「そんな訳で！」

タクミ「始まります！」

ミッシングエース1：剣士と乙女の出会い

「……はあ……」

とある日の朝、肩をすくめて落ち込んでいるのはこの物語の主人公『剣崎 一真』である。

なぜ彼が落ち込んでいるかと言うと…

剣崎「またアルバイトクビか…」

はあ〜と今度は深いため息を付く。

彼が元いた人類基盤史研究所『BOARD』でほとんど安月給だったのではとどなく、戦いが無い間、彼はこうしてアルバイトしているが長続きしなくて色々と懐が狭くなっていた。

剣崎「真司と巧が色々と羨ましい…あいつ等はあいつ等で勤めてる所があるし…」

空を見上げて、親友であり、同じ赤貧仲間である2人を思い浮かべた後にまた、ため息を付く。

その時…

剣崎「っ!？」

剣崎の耳に銃声が聞こえ、瞬時に剣崎の顔つきが戦士の顔となり、懐からバツクル『ブレイバツクル』を取り出し、それにアンデッド

が封印されたカード『ラウズカード・？A』をインサートすると剣崎の腰に装着され、剣崎は構えた後に叫ぶ。

剣崎「変身！！」

それと同時にブレイバツクルの右のレバーを引く。

ブレイバツクル「ターンアップ」

その音声の後に青い壁『オリハルコンエレメント』が現れ、剣崎はそれを通り抜ける事でその姿を変えた。

赤き目に青いスーツの上に真ん中に？が描かれた銀色の鎧を纏い、腰に剣士の証である剣『醒剣ブレイラウザー』を持った仮面の戦士「ブレイド」である。

変身完了と共にブレイドは音のした方に向かった。

ブレイドが向かう場所で3人の少女がいた。

1人は赤い髪の少女で手に拳銃を握っていて、そんな赤い髪の少女と対峙するは青髪の少女で膝を地面に付いてる彼女を茶髪の少女がきよとした顔で見っていた。

赤髪の少女「クソ女！邪魔すんじゃないねえ！」

茶髪の少女「！？」

青髪の少女「おいッ！！」

赤髪の少女が銃を茶髪の少女に向けた時、青髪の少女が停止をしようとした時に右手が光る。

その時

????「メタル」

ダンッ！

ドオオオオ！

機械の音声がした後、赤髪の少女が銃弾を放つと同時に青髪の少女の手から火の玉が放たれると2人の少女の間に何かが現れ、2人の攻撃を防ぐ。

赤髪の少女「なっ！？」

青髪の少女「なんだ！？」

いきなりの事に2人の少女が戸惑う中、2人の攻撃を受け止めた人物：ブレイドは2人を交互に見た後、赤髪の少女に言う。

ブレイド「危ないじゃないか！こんな街中でそんな物を使って！！

どこから手に入れたんだ！」

赤髪の少女「うっせえ！いきなり割り込んで来て何様だお前！」

銃を構える少女にブレイドは言う。

ブレイド「俺はブレイド！仮面ライダーブレイド……君の名前は？」

赤髪の少女「……『美嶋 紅音』だ……それでもう一回言うが邪魔するな！」

そう言っつてブレイドの脇を通り抜こうとして……青髪の少女の右手首を見て動きを止める。

ブレイド「？」

いきなり動きを止めた紅音にブレイドは訝しげに彼女を見ると紅音はチツと舌打ちした後にブレイドと青髪の少女に背を向ける。

紅音「つまんねーの」

そう言っつとこの場を離れて行っつた。

ブレイド「（何がしたかつたんだ？ あの子？）あつ、大丈夫かい？」

青髪の少女「あつ、はい……たすかつた……」

そう言っつてハーと脱力する青髪の少女だったが茶髪の少女を見て目

を点にする。

茶髪の少女「…あの」

青髪の少女「（ヤバイ！！）」

ジイと自分を見る茶髪の少女を見て青髪の少女は口をパクパクさせた後、ブレイドと茶髪の少女に背を向けて走り去って行った。

ブレイド「なっ、何なんだ…あつ、君はどこか怪我をしていない？」

茶髪の少女「あつ、はい」

ブレイドに話しかけられ、茶髪の少女はそう答えた後、茶髪の少女は青髪の少女が去った方向を見ながら胸を両手で押さえ、顔を赤くしていた。

剣崎「つと言つ訳なんだよ…」

数日後、剣崎は良く行く喫茶店『ハカランダ』にて、目の前の親友と仲間、『城戸 真司』、『乾 巧』、『橘 朔也』、『相川 始』、『上条 睦月』に数日前に会った少女達について話していた。

橘「剣崎、確か赤い髪の少女…美嶋 紅音って言つ子が銃を、青髪の少女が手から火の球を出したんだな？」

剣崎「はい…橘さんは何か知ってるんですか？」

剣崎の問いにいや…と答えた後にしかしと言葉を続ける。

橘「お前が言った女の子達の制服は知ってる…その子達は『私立星鐵学院高等学校』の学生かもしれない」

真司「橘さん、知ってるんですか？ 確かあそこって10年前までは女子高でその後に共学になったけど男女交際に厳しいって言うのが俺の知ってる事ですけど…」

巧「俺もそれ位だな」

橘の言った事に真司がそう言い、巧も同意する。

橘「実はと言うと…俺はそこのOBだ」

始「そうなのか？ 天音ちゃんが大きくなったらそこに行くって言うってたな…それで睦月…そんなにへばってどうした？」

今までの会話でぐぜゝとなっている睦月に始は首を傾げながら言う。

睦月「いえ…転校した学校で知り合った子達に色々と振り回されて…しかも望美の奴もそれで黒くなったりしてて…苦労してます」

真司「分かる。分かるよ睦月君。」

どよゝんとなる睦月に真司が涙目になりながら同意する。

???「あら？ 橘さんも星鐵学院の卒業者なんですか？」

そんな会話に入り込むのはハカランダの店長『栗原 遥香』で、橘を見てそう言う。

橘「ええ…そう言う栗原さんですか？」

遥香「はい…星鐵学院がどうしたんですか？」

剣崎「いえ…ちょっとその女の子達と会いまして、少し気になったんですよ」

遥香の問いにちょっと濁して剣崎は言う。

遥香「あつ、そうだ…剣崎君、今何かアルバイトしてる？」

剣崎「いえ…今、探してる途中です」

巧「…苦労してるな」

どよ〜んとなる剣崎に巧は哀れみの目で見る。

遥香「丁度良かった！その星鐵学院の今の学園長が私の知り合いでね…」

翌日

剣崎「まさか、話に出ていた星鐵学院に入れるとはな…」

窓を外を見ながら剣崎は胸にBOARDのマークが描かれた青いジャケットを羽織り直して廊下を歩く。

なぜ彼が私立星鐵学院高等学校にいるかというと遥香の勧めで来たのだ。

遥香が言うに警備員が1人抜けたので知り合いに何も職に付いていない人がいないかを聞きに来たらしく、丁度剣崎にその白羽の矢が立ったのだ。

剣崎もあの少女達を探したかったのでそれを快く了承して今此処にいるのだ。

剣崎「(あの美嶋 紅音ちゃんは戦っていたけど…俺の後ろにいた青髪の女の子の何かを見て戦いを止めた…もしかしてあの右手首にあった腕輪が関係してるのか?)」

歩きながらそう考えていた時、剣崎はある事に気づいた。

剣崎「(そう言えば…あの青髪の子も右手首に青い腕輪をしていた…そしてあの紅音ちゃんの右手首にあった腕輪も青…色も関係してるかもしれないな…)」

そう考えながら歩いていた時…

ドン！

????「うわっ！」

剣崎「っと！ごめん大丈夫…君は！？」

ぶつかった人物に謝り、安否を聞こうとした時に剣崎は目を開く。

ぶつかった人物は…剣崎が探そうとしていた数日前にいた青髪の少女であった。

剣崎「まさかこんなに早く見つかるなんて…」

目の前の青髪の少女を見てそう心で呟いた時、ふとある事に気づく。

剣崎「（？腕輪が点滅している？）」

青髪の少女「すつ、すいませんでした！」

疑問視を浮かべる剣崎にそう言った後、青髪の少女は走る。

剣崎「あつ、ちょっと…」

それに剣崎は遅れて追いかける。

少し迷ったが、気配を辿れば良かったんだと思った後に追うと…

紅音「一回死ね！」

青髪の少女「止める紅音！」

なぜか数日前に会った少女、紅音に服の襟を掴まれ、宙ぶらりんにされていた。

剣崎「どっ、どう突っ込めば良いんだ…」

そう呟いた後、詳しく聞く為に剣崎はブレイバツクルを取り出した。

青髪の少女「しっ、死ぬかと思った…」

紅音「1回死んどけ、それからあたしが言っただ事を考える」

青髪の少女「死んだら考えられるかよ…!」

ぜえぜえと地面に膝を付き、息を吐いて整えた後に青髪の少女は紅音の言っただ事にツツコミを入れる。

紅音「っ！誰だそこにいる奴…!出て来ないとぶっ殺すぞ!」

何かに気づき、扉に向かって言っただ紅音の言葉に答える様に扉を開けて来たのは…

紅音「あんたは!?!」

青髪の少女「仮面ライダーブレイド!?!何で!?!」

近寄って来るブレイドに紅音が警戒する中、ブレイドは手を前に出す。

ブレイド「俺は戦いに来たんじゃない。数日前に何で戦いあったのか聞きたいんだ」

紅音「…それはホントか?」

紅音の問いに答える様にブレイドは醒剣ブレイラウザーを取ると青髪の少女に地面へ滑らして渡す。

青髪の少女「おっととと！」

慌ててブレイラウザーを取ると青髪の少女はブレイドを見る。

ブレイド「これで良いだろ？」

紅音「…ああ」

まだ警戒しながらもブレイドの問いに紅音は頷く。

ブレイド「…つまり、君達の存在を『ケンプファー』と言って…そのケンプファーの証として右手首にあるのが『誓約の腕輪』で…色がそれぞれ青と赤ある…って事で良いのか？」

紅音「ああ」

聞いた事を復唱して言ったブレイドの問いに紅音は頷く。

その後、ブレイドは青髪の少女の方を見る。

ブレイド「そう言えば君の名前を聞いてなかったな…君の名前は？」

青髪の少女「えっ？あつ、えっと…ナツル…『瀬能 ナツル』です」

急に聞かれて青髪の少女、ナツルは慌てて答える。

ブレイド「ナツルちゃんに紅音ちゃんだね…（ゴッ）あり？」

紅音「このクソ仮面野郎…あたしをちゃん付けで呼ぶとはいい度胸だ？」

名前確認で言った瞬間、紅音がいきなりブレイドの顔に銃を突き付けた。

ナツル「ちょっ！紅音！」

紅音「良いか？こいつにも言ったがあたしがこの世でがまんならない事は二つある。一つはトーストのバターを塗った方を下にして落ちること、もう一つはあたしをちゃん付けで呼ぶことだ」

ブレイド「それじゃあどう呼べと？」

銃を突き付けられたまま、ブレイドは聞くと…

紅音「フレンドじゃないが呼び捨てしろ」

ナツル「ああゝ出来ればお…私も呼び捨てで…歯がゆくて…」

銃を突き放してそう言った紅音の後にナツルが付け加える。

ブレイド「分かった…そう言えばケンプファーはホントに戦わなきゃあ行けないのか？」

紅音「なったからにはな…もうないだろ聞くの？」

ああと答えた後にブレイドはナツルからブレイラウザーを返して貰

った後にラウズアブゾーバーから2枚のカードを取り出した後にま
ず？Qを装填する。

ラウズアブゾーバー「ABSORB QUEEN」

そして？」をラウズする

ラウズアブゾーバー「FUSION JACK」

その音声の後にブレイドの前にカードに描かれた？」の絵が出た後、
ブレイドに融合し、イーグルアンデットの紋章が胸に刻まれ、背中
には金色の翼が装備された『仮面ライダーブレイドジャックフォー
ム』に強化変身した。

ブレイドJF「それじゃあ」

そう言うと同時にブレイドJFは飛び去って行った。

その後、物陰に隠れ、剣崎は変身を解いた後に警備に戻る。

ナツル「はあ~~~~」

数時間後、ナツルは自分の家でベッドに倒れた。

ナツル「退屈じゃねえよ……」

ブレイドと分かれた後、授業を受けた後に取材やら撥られたり、さ

つきた友人の女の子の手紙の内容を見てそう言う。

???「随分とお疲れの様ですね」

そんなナツルに話しかけるのは彼女をケンプファーにした“調停者”モデレーターが送って来たメッセンジャーのヌイグルミ『ハラキリトラ』である。

ナツル「まあな…しかも今日はブレイドに会ったし…」

ハラキリトラ「ブレイドと言うと…ナツルさんが言っていた仮面ライダーですね」

ナツル「ああ…それで何時になったら俺は男に戻れるんだ？このままじゃ俺の貞操が危うすぎる！」

…補足して置くとナツルは元々男なのだがケンプファーになると女になってしまうのである。

それにより色々と前記の損な事が起こっているのだ。

閑話休題

ハラキリトラの問いに答えた後にハラキリトラを見て言う。

ハラキリトラ「貞操？良いじゃないですか減る物じゃないですし」

ガシッ！

色々と危険的な発言をしたハラキリトラの頭をナツルは掴み…

ブン！

ゴミ箱に投げ込み、ハラキリトラは見事入る。

ナツル「次のゴミの日こそぜってえ出してやる」

ピンポン ♪

ゴミ箱を見てナツルがそう言った瞬間、インターホーンが鳴る。

ナツルは誰だろうと疑問に思い、玄関に向かう。

ナツル「はい」

玄関を開けると…

???「チヨリゝス」

頭に黒いウサギを乗せたちよつと気弱な少女がいて、頭に乗ったウサギが手を上げて言う。

ナツル「どうしたの“紅音”ちゃん？」

そう、気弱な少女こそケンプファーになる前の紅音であり、彼女の頭にいる黒ウサギが彼女のメッセンジャー『セツクウサギ』である。

その後、紅音が持つて来たケーキを食べた後、帰ろうとした紅音を止めてナツルはブレイドについて相談する。

ナツル「紅音ちゃん的にブレイドはどう思う?。」

紅音「そうですね……仮面で顔を隠してますが悪い人には見えませんね…だって最初に会った時に私とナツルさんの攻撃を間に入って受け止めて怒鳴ってくれましたし…」

ナツルの問いに紅音は少し考えた後にそう答える。

ナツル「そうだよな…実はどうもブレイドや仮面ライダーの名前をどっかで見た様な気がするんだよ…」

セツプクウサギ「?どう言う事だ?」

セツプクウサギが首を傾げた後にナツルは言う。

ナツル「何と言うか…あの姿や名前を何かの本で見た様な気がするんだよな…」

ハラキリトラ「もしかして…あそこに置いてある本の事じゃないですか?」

頭をとんとんするナツルにそう言ってハラキリトラが本を置いてある場所を指すとナツルは何本か見た後、その中にある本を見て叫ぶ。

ナツル「これだ!..!」

テーブルの上に置いて本のタイトルを見せる。

紅音「『仮面ライダー』という名の仮面」？」

ナツル「ああ、どうも覚えがあると思ったけどこれだったんだ…これにブレイドや他のライダーもあつたんだよ…もしこれの話が本当なら…ブレイドの他にもライダーが存在するって事だ」

ハラキリトラ「それでどうするんですか？」

ナツルが言った後、ハラキリトラがそう問うと…ナツルは頭を掻く。

ナツル「特に…ない」

それに1人と2体はため息を付く。

紅音「けどまあ…覚えて置いた方が良さそうですね…それでナツルさん、ブレイドさんの本名って何ですか？」

ナツル「ああ…確か…」

そう言つて本をペラペラ捲り、ある項で止めて言う。

ナツル「名前は剣崎 一真…ん？どうしたの紅音ちゃん？」

目を点にする紅音にナツルは首を傾げる。

紅音「いえ…ナツルさんと分かれた後に図書委員の仕事の際に助けて貰った人の名前がさっきナツルさんが言った剣崎 一真さんなん

です」

紅音の言った事にええ~~~~とナツルの声が響いた。

剣崎「はつくしゅん！…風邪かな？」

???「誰か剣崎君の事を噂してるんじゃない？」

鼻を嚙りながら首を傾げる剣崎に剣崎の親友である『白井 虎太郎』がそう言う。

虎太郎「それにしても…また剣崎君、戦いの中に入りそうな気がして嫌な予感しかないよ」

剣崎「…その予感が外れて欲しいもんだな」

虎太郎の言った事に剣崎はそう言う。

…この時剣崎は虎太郎の予感が数日後に起こる事をまだ知らなかった。

NEXT

ミッシングエース1：剣士と乙女の出会い（後書き）

次回『ミッシングエース2：赤のケンプファーとの出会い』

運命の切札を掴み取れ！！

ミッシングエース2：赤のケンプファーとの出会い（前書き）

士「けんぷファーでのもう1つの勢力の1人との出会いだな」

カズマ「んで俺たちも登場ですね…チーズは少ないけど」

士「言うな」

ミッシングエース2：赤のケンプファーとの出会い

ナツル達が剣崎について気づいた日の翌日の夕方。

とある廃工場で戦うブレイドに真司が変身する『仮面ライダー龍騎』に巧が変身する『仮面ライダーファイズ』の姿があった。

彼等の前にはネズミの様な姿のオルフェノク『ラットオルフェノク』が3体いた。

ブレイドはブレイラウザーから3枚のカードを、龍騎はカードデッキからアドベントカードを取り出し、ファイズはファイズメモリーをファイズポインターに装填した後に足に付ける。

ブレイラウザー「キック、サンダー、マッハ…ライトニングソニック」

ドラグバイザー「ファイナルベント」

ファイズフォン「Exceed Charge」

ブレイドは3枚のカード『？5・キック』『？6・サンダー』『？9・マッハ』をラウズし、龍騎はドラグバイザーにカードを装填、ファイズはファイズフォンの『ENTER』を押すと同時にそれぞれの音声 flowed 後、3人は必殺技の体制に入った。

龍騎「おりやあああああ！！！！！」

ファイズ「はあああああ！！！！！」

ブレイド「ウエエエエエー!!!!」

龍騎の『ドラゴンライダーキック』、ファイズの『クリームゾンスマッシュ』、ブレイドの『ライトニングソニック』が3体のラットオルフェノクに決まり、その身を灰にして消えて行った。

ファイズ「悪いな2人共、手伝って貰って」

龍騎「良いって良いって」

ブレイド「そうだぞ巧」

ファイズの言葉に龍騎は手を横に振り、ブレイドが頷いて言う。

龍騎「そう言えば剣崎、確か近々星鐵学院の文化祭があるんだよね？」

ブレイド「ああ、巧も知ってるか？」

ファイズ「まあな…真理と啓太郎の奴が面白そうだから行くって言うんでな。俺も行くつもりだ」

龍騎の質問にブレイドは頷いて答え、聞かれたファイズは肩を竦めてそう答える。

龍騎「俺も皆と行くんだ…それでお金はどこまで残るのやら…（遠い目）」

ファイズ「あ~~~~~…まあ…頑張れ」

ブレイド「…最近仕事に就いた俺が言うのもなんだけど…給料が良
いのにすぐに減るよな真司の。」

視線を逸らし哀愁漂わせる龍騎にファイズとブレイドは頭に漫画の
様な汗を付けながらファイズは励まし、ブレイドはそう呟く。

虎太郎「へえ、星鐵学院の文化祭か。」

剣崎「ああ、虎太郎も行くのか？」

数時間後、虎太郎の家で剣崎は虎太郎と共に夕食を食べていた。

さて、今現代、剣崎は虎太郎の家に居候している。

理由は今現代の剣崎のお金ではマンションや家具が買えず、お金が
あつたとしても大事にしたい剣崎に虎太郎が居候させているのだ。

お金を出してくれる虎太郎に剣崎は申し訳ない位感謝してるが本人
は僕達は親友だろ？ 助けるのは当たり前じゃないかと言う事で済
まされている。

虎太郎「うん、あそこって姉さんの母校で色々面白い奴もあるか
ら行くんだ。天音ちゃんも始と姉さんと行くそうだよ」

剣崎「そうか…広瀬さんは行くと思うか？」

虎太郎の言った事に剣崎はふと思った疑問を言う。

虎太郎「もしかしたら行くんじゃないかな？ … まっ、何もなければ僕も良いんだけどね」

剣崎「… そうだな」

笑って言う虎太郎に剣崎はなぜか不安を隠せない顔で同意する。

ジョーカーとなった剣崎は直感が凄まじくなり、文化祭の日に何やら嫌な予感が起こりそんな気がすると感じ取っていた。

そんなこんなで翌日の星鐵学院

剣崎「（… それにしても…）」

着いた後に貰った星鐵学院校内新聞を見て剣崎は思った。

剣崎「（ミスコンもあるんだな此処って… しかも写真に写っている1人の子はナツルと一緒にいた子だし… 名前は『沙倉 楓』ちゃん… んでもう1人は『三郷 雫』ちゃんか… ン…？」

歩いていて剣崎は目の前を走るナツルを見つける。

剣崎「何で急いでいるんだ… それも確か此処、男子校舎だし…」

気になった剣崎はナツルを追いかける事にした。

ちよつと此処でナツルの方にしよう。

ナツル「（おいおい？　俺がミスコン出場だなんてどう言う事だよ？）」

学校に着いて、ぼんやりしていた時に男性時のクラスメイト『東田幹仁』からミスコンの事を聞き、何時の間にか女性時の自分が何時の間にか出場決定されていた事に驚き、途中で女になってしまい、自分を出場決定させた本人に問い詰める為に走っていたのだ。

ナツルが向かう部屋に長い黒髪と抜群のスタイルを持つ美女が椅子に座り、書類に記入していた。

そこに…

タッタッタッタッガラッ！

ナツル「何の嫌がらせだ！？」

その言葉に少女…雫は書類から目を離して扉を開けて立っているナツルを見る。

ナツル「どうして男の俺がミスコンに出なきゃならないんだよ！？」

雫「女の子じゃない」

ナツルの言葉に雫は真顔であっさり言い、それにナツルはあっけに取られた後に言う。

ナツル「さっきまた勝手に変身しちゃったんだよ！ 自分じゃまだコントロール出来ないんだよ！」

雫「別に嫌がらせじゃないわ」

叫んだナツルに雫は目を閉じてさっきの問いに答える。

ナツル「えっ？」

雫「全ての生徒により良い学生生活を提供するのが生徒会の役目…私は皆に文化祭を楽しみにして貰いたい。その為にはあなたが必要だと判断しただけ、他意はないわ」

じつと自分を見るナツルに雫はそう言った後に立ち上がり、ナツルを背にし今度はテーブルに座り、足を組むと顔をナツルに向ける。

雫「男子女子部共に注目してる謎の美少女、彼女が文化祭の舞台に立てば生徒達のモチベーションも上るわ」

ナツル「要するに、俺を利用するわけだ」

雫「あら？あなたも利用して良いのよ？」

分かった所を纏めたナツルに雫がそう言うとなツルはまたあっけに取られる。

ナツル「えっ？」

雫「学園の為なら生徒会長なんて使い倒しなさい」

その言葉にナツルは顔を少し下げた後、言いたい事はそれだけと言う感じに雫は顔を前に向ける。

ナツル「あっ…まあ…真面目に文化祭の事考えているなら分かったよ」

はっとした後、右手を頭の後ろに置いて苦笑しながら言った後、でも…とナツルは困った顔で続ける。

ナツル「だったらなおさら俺のミスコン出場も考え直してくれないか？」

雫「そんなに出たくないの？」

ナツル「目立つのは嫌だからな、それに俺なんかが出たら真面目にミスコンに出る子達に悪いだろう？」

雫「なら、交換条件と行きましようか？」

ナツルのその言葉に雫はナツルの方を向いて微笑む。

ナツル「交換条件？」

驚くナツルに雫は左手で軽く髪をかき上げた後、背中の髪を少し退ける。

目をパチクリするナツルに雫は言う。

雫「気持ちよくしてくれない？」

ナツル「ええええええええええ！！」

いきなりの言葉にナツルは仰天して慌てる。

劍崎「（それにしても…何でナツルは男子校舎にいたんだ？）」

女子校舎でナツルを探す剣崎はさつきから疑問に思っている事を考えながら歩いていた。

その時

バンバン！

剣崎「……またか？」

聞き覚えのある銃声に剣崎は顔を手で覆う。

丁度チャイムが鳴って銃声を消したが、剣崎には聞こえた。

剣崎「はあ……」

ため息を付いた後に剣崎はブレイバツクルを取り出す。

戻ってナツル達の方では…

銃を構える紅音と鎖に付いた2本の短剣を構え、髪の内側がプラチナブロンドになってる雫がいた。

なお、ナツルは紅音の銃弾により当たってはいないが壁に張り付いていた。

紅音「てめえ、相棒に何しようとしやがった!？」

雫「文化祭について、少し意見交換をね」

紅音「何が意見交換だ!ナツルの弱みに付け込んでからかってただけだろう?」

雫「同意の上かもしれないよ?」

ナツル「ええっ!？」

紅音の言葉に雫はナツルの方を見てそう言い、雫の言葉にナツルは慌てる。

紅音「へん!そこのチキン野郎にそんな甲斐性はねえよ」

紅音の言葉にナツルは少しショックを受けた感じの顔で紅音を見る。

雫「胸は触られたわよ」

ナツル「うえ！？」

左頬に手を置いて言った雫の言葉にナツルは仰天して雫を見る。

なお、さっき雫が言った条件は肩を揉む奴でその際にナツルは彼女が前を向いてるのに気づかず間違っ胸を揉んでしまったのだ…大丈夫かなこの表現？（さあ？byルイージ）

紅音「馬鹿、そのヘタレがする訳ねえよ、なあ？」

ナツル「……………」

からから笑って同意を求める紅音にナツルは青いオドロ線を出して頬をつつすら赤く染める。

紅音「とりあえず！一辺逝つとけ相棒！！言い訳はバッファロード
「てい！」「っ！？」

慌てるナツルに銃を向ける紅音の頭を後ろからチョップを入れられる。

紅音「誰だ！あたしにチョップした奴…っってお前は！？」

ナツル「ブレイド！（助かった）ありがとうブレイド！」

チョップを入れた人物、ブレイドに紅音は驚き、ナツルは心の中で感謝の言葉を言う。

ブレイド「こんな所で銃を撃ったら駄目じゃないか!」

雫「あなたは?」

紅音に怒鳴るブレイドに2本の短剣を仕舞いながら雫は問う。

ブレイド「俺は仮面ライダーブレイド…君もケンプファーなのか?」

雫「ええ…三郷　雫、彼女達とは敵対する側のね…今は彼女達と争う気はないわ…今日は此処までね」

ブレイドに右手首の赤の誓約の腕輪を見せてそう言った後、横を通り抜ける。

紅音「逃げるのか?」

雫「チャイムが鳴ったの知らなかった?」

その言葉に紅音はあつと声を上げる。

雫「ちゃんと授業には出ないと…ね?」

紅音を見た後にナツルに目を向ける。

ナツル「会長!」

雫「ミスコン、楽しみにしてるわよ」

微笑んで言った雫のその言葉にナツルは驚く。

ナツル「ちよつと、話が違うぞ!!」

「壁の修繕費代わり、相棒なんでしょ？」

エレベータの扉を開けて言った雫の言葉にナツルははっとして自分が張り付いていた壁にある紅音が撃った弾の跡を見て、こいつ……と紅音を睨み、睨まれた本人は肩を落とす。

雫「そうそう、次に来る時は男の姿でお願いね」

その言葉の後にエレベータの扉が閉まる。

ブレイド「男の姿？」

紅音&ナツル「あっ、」

首を傾げるブレイドに紅音とナツルは顔を合わせる。

ナツルと紅音は聞いて来るブレイドを色々とごまかした日の夜のナツルの家

ハラキリトラ「あっははははははははははははははははは！」

[illegible]

椅子に座り、男に戻ったナツルとベッドに座った紅音から話された

今日の出来事に2匹のメツセンジャーは目に涙を浮かべ爆笑していた。

ハラキリトラ「まさかナツルさんがミスコンとは笑えますね」

セツプクウサギ「ミスしたのはお前の人生と性別だな」

そう言つてまた笑い出す2匹をナツルは立ち上がつて掴んだ後に…
投げた。

ハラキリトラ&セツプクウサギ「うわあ~~~~~」

そして前回と同様に見事にごみ箱に入った。

紅音「すみません！あたしが余計な事しなければ…」

ナツル「もう良いつて、あの悪魔の事だ、どう転んでもこうなった
気がするよ」

顔を伏せて謝る紅音にナツルがそう言つと紅音は顔を上げる。

紅音「じゃあナツルさんはホントにミスコンに出るつもりですか？」

ナツル「気が進まないけど…けどミスコンって何をすれば良いんだ？」

ハラキリトラ「ファイト！」

セツプクウサギ「オー！」

ゴミ箱から顔を出した2匹にナツルは本を投げてぶつける。

2匹「うわぁ！」

そして再びゴミ箱の中に消える。

ナツル「やっぱり舞台で何かしなくしゃあいけないのかな？ 俺何も特技がないんだよな…」

腕を組んで言ったナツルに紅音が提案する。

紅音「歌とかはですか？」

ナツル「えっ？」

紅音「最近のアニソンはアニソンらしくなくて普通の人が歌っても平気です」

ナツル「人前で歌うのかぁ…」

紅音の提案にナツルは頭に漫画に出るような汗を付ける。

ハラキリトラ「それより衣装どうするんです？」

ナツル「あつ、それもあつたか…」

ゴミ箱から再び出て来たハラキリトラの問いにナツルは頭に手を当てて言う。

ハラキリトラ「今後の事もありますし、下着の方も揃えた方が良い

ですよ」

ナツル「しっ、下着!？」

ほにゃゝとするハラキリトラの言葉にナツルは顔を赤くする。

紅音「あたしもそう思います」

ナツル「えっ？」

紅音「ナツルさんはまだ自由に变身できませんし」

腕を組んで紅音はハラキリトラの提案に同意する。

ナツル「せつ、制服の時に变身すれば下着も勝手に変わるし… / /」

ハラキリトラ「でも…何で制服だけ特別なんでしょうかね？」

セツプクウサギ「モデレーターが制服マニアなだけじゃねえか？」

ハラキリトラ「なる」

顔を赤くするナツルを見てハラキリトラは首を傾げ、セツプクウサギの言葉に勝手に納得する。

ナツル「けど女物を買うのに抵抗が…」

ハラキリトラ「変身した時にノーブラで戦いたいのなら止めませんが」

ナツル＆紅音「えっ？」

オドロ線を頭に付けるナツルはハラキリトラの言った事に紅音と共に驚く。

この後のセツプクウサギの言葉は流石にやばいのでカット（妥当だなbysネーク）

（どう言ったか詳しく知りたい人はアニメの方を見てください）

セツプクウサギが放ったその言葉にナツルは顔を赤くして慌てて、紅音も顔を赤くして胸の前を腕で交差して抑える。

ナツル「しっ、しかたがない…ねえ紅音ちゃん」

紅音「はっ」

決意したナツルの言葉に紅音は我に返り、ナツルを見る。

ナツル「おっ、俺と一緒に行ってくれる？」

紅音「行くう！？」

ナツルの言葉に紅音は顔を赤くしてスカートを抑えてモジモジします。

紅音「なっ なっ なっ なっ ナツルさん、リードしてくれますか？」

どうやらさっきのナツルの言葉を勘違いしてるようだ；

ナツル「うえっ？ いや、出来ればリードして欲しいんだけど…」

紅音「あつ、あたしが！？」

ナツルの言葉に紅音は叫んだ後、ナツルを見る。

紅音「わっ、分かりました。勉強して置きます」

ナツル「ありがとう、助かるよ」

……思いっきり勘違いしてるが大丈夫だろうか？（何が？by鈍感音速&爆熱）

ナツル「そう言えば…話変わるけど…紅音ちゃんは剣崎さんと話したか？」

休日での方面が決まったのでナツルは紅音にそれを聞くといえ…と紅音は首を横に振る。

紅音「あの時以外は全然…ナツルさんは…してませんね」

ナツル「うん……」

あの時と言うと昨日の朝に遡るがナツルがその前の日に紅音の友人『西乃 ますみ』から取材をさせられ、それにより女ナツルは百合と書かれたり（なお、その際剣崎はその時の校内新聞を見ていない）して大変な目に遭い、剣崎に話しかける機会が無くなった他、その後、後に楓と雫と共に食事してる時に雫が楓に女時のナツルが男時のナツルが好きだと言う嘘を言っただけを楓は鵜呑みしてその数分後に

男状態だったナツルが紅音という所を見て一方的にライバル宣言される。

なぜ楓はライバル宣言したかと言うと…女状態のナツルが好きだからである。

ナツルがブレイドと出会った際の紅音との勘違いでの戦いで助けられた事で一目惚れしたらしく、しかも告白もされている。

だが…そのナツルにとっては自分も楓の事が好きだがあくまで楓が好きなのは女状態のナツルで元の男の状態のナツルはライバルと認識してるので複雑な気分になっているのだ。

ナツル「けどな…ケンプファーの状態じゃないと疑われるだろうな…」

紅音「しかも同姓同名で人違いだったらどうしましょうか…」

ほとんどお互いにケンプファーと仮面ライダーの状態だったので2人はうっうん考える。

ハラキリトラ「まあ、そう言うのは置いといて今は休日の衣装と下着調達ですよ」

セツプクウサギ「そうだぜ」

その言葉にナツルははあ〜と肩を落とす、紅音は顔を赤くしてモジモジします。

そして休日のハカランダ

真司「へえ、他のキャンプファーに会ったのか？」

剣崎「ああ、それも最初に会った2人とは敵対関係になる筈の赤のキャンプファーにね」

巧「けど…お前の話じゃああんまり敵対してないと…（フーフー）」

コーヒーを飲んで剣崎から聞いた話に真司は関心し、剣崎はそう言い、巧はコーヒーを冷ましながら言う。

真司「ホントたつくんって超猫舌だよね」

巧「たつくん言うな、平然と暖かい物を食べれるお前等に言われたくない」

剣崎「ははは（汗）…ん？」

真司の言葉に巧は拗ねて冷ましたコーヒーを飲み、剣崎は苦笑いした後に扉の方を見る。

???「此処が今話題の喫茶店ハカランダです…ってああ!？」

入って来た人物は剣崎を見るなり驚き、指差す。

剣崎「君は…」

「???2「どうしたの紅音ちゃん？」

剣崎が聞く前にその人物、紅音の後ろにいた少女、ナツルが驚いて聞く。

真司「へえ、君達が剣崎が警備員を務めてる星鐵学院の生徒さん達か」

2つのテーブルをくつつけ、自己紹介したナツル達に真司はそう言う。

ちなみにナツルや紅音の他、先日剣崎がブレイドの時に会った雲に新聞に載っていた楓がいた。

紅音「あの、あなたは？」

真司「あつ、自己紹介が遅れたね。俺は城戸 真司、モバイルニュース配信会社『OREジャーナル』に勤める記者さ」

あつ、これ俺の名刺と言って4人に名刺を渡す。

楓「そちらの方も同じ所に勤めてるんですか？」

巧「俺は違う、俺はクリーニング店『西洋洗濯舗 菊池』に勤めてる。名前は乾 巧だ。愛称はたつくんだよ」だからたつくん言うな!!!」

楓の問いに巧がそう答えて名乗った時に割り込んだ真司に巧は叫ぶ。

真司「何言ってるんだたつくん!!! 啓太郎君は良くて何で俺は駄目

なんだ！？親友だろ！？」

巧「親友でもだ…あんたは広げそうだからだ…」

叫ぶ真司に巧は顔を手で覆い、頭を抱える。

雫「あなた方って漫才師にも向いてると思うわ」

クスクス笑う雫に真司は頭を掻き、巧はそっぽ向く。

剣崎「そう言えば真司…あの子達はどうした？」

真司「ああ、色々と自分の事をやっているよ」

ナツル「あの子達…って？」

巧「こいつの家族だ」

そう言ってワイワイ話してる時…

始「コーヒーのお代わりはどうだ？」

剣崎「ああ、頼むよ始」

来た始に剣崎はそう言った後、始を見ているナツル達に言う。

剣崎「紹介するよ、こいつは相川 始、此処に居候させて貰っている俺の友達だ、始、この子達が星鐵学院に通っている子達だ」

始「そうか、相川 始だ。よろしく」

ナツル「あつ、はいこちらこそ」

剣崎に自己紹介されて名乗る始にナツルは頭を下げるとお代わりしたい時は呼んでくれと言って始は他のテーブルに向かう。

紅音「あつ、そう言えばあの時、ありがとうございます」

剣崎「いやあ、俺は困ってる人を見過ごせないから…」

手伝って貰った時の事を礼に頭を下げる紅音に剣崎は頭を掻いてそう言う。

ナツル「思いっきり理想だな…」

巧「そこが剣崎の良い所だ」

真司「うんうん、俺達の誇りだよ」

ナツルの呟きに巧はそう言い、真司は頷いて言う。

遥香「あら、剣崎君の新しい知り合い？」

そこに遥香が剣崎達のテーブルに近寄る。

剣崎「あつ、栗原さん、この子達、星鐵学院の子達なんですよ」

遥香「あつ、それじゃあ私の後輩って事ね…初めまして栗原遥香と言います。あなた達の通っている私立星鐵学院高等学校のOBよ」

紅音「そうなんですか？」

剣崎「そうなんだ、星鐵学院の学園長さんが遥香さんの知り合いでそれで俺を紹介してくれたんだ」

色々話し合う剣崎達を見ながら真司と巧はその光景に頬を緩ませる。

真司「ホント良かったよな…」

巧「ああ、土と力を合わせてあの馬鹿な統制者を倒した…今は？2のラウズカードを除いて剣崎が所持…今は人々や人々に味方するオルフェノクを脅かすオルフェノクを倒す事だけ…なんだが…」

巧は言葉を切り、真司は巧を見る。

真司「剣崎の言った嫌な予感か？」

巧「ああ…今は俺とお前、剣崎以外にこの世界にライダーはいない…デルタやカイザは今の所装着者はなし、最近になって発見されたオーガにサイガの奴もなし…」

真司「剣崎の方のはギャレンバツクルにレンゲルバツクルは修理にしばらくかかる程大破だもんな…ってか三原君は？」

デルタの変身者である名前を出した真司に巧は頭を掻いて言う。

巧「あいつにはあいつの夢があるんだ…ほとんど短命と言われた俺だったがあのスキマ妖怪のお陰で寿命が人並みに延びたから俺は仮面ライダーとして人や人と共存するオルフェノクの夢を守る為に戦

う。あいつにはあいつの夢を叶えさせたいんだ」

真司「ああ…紫さんな（汗）けど…確かにそうだな…俺も蓮や皆を巻き込みたくないしな…あいつ等にはもうライダーをやらせたくない…」

巧の言葉に真司は同意した後、何時の間にか来た天音と話すナツル達を見てる剣崎を見る。

巧「何もなければ良いんだが…」

真司「ああ…」

真司と巧がそう願っていたが彼等の願いは虚しくも外れてしまい、それは起こっていた。

同時刻、ディケイドの世界にて…

????「こりゃ酷いな…」

黒のジャケットに黒いズボンの暗めな服装で首からトイカメラを提げている男性『門矢 士』は入った建物の内部の現状を見て呟く。

今、彼がいる場所は株式会社『BOARD』、ディケイドの世界の

一つとなつた『ブレイドの世界』にあつた建物である。

???「ワタルは大丈夫かな…あいつ、アスム君と一緒に見学に来ていたからな…」

???2「大丈夫ですよユウスケ、あの2人もライダーですし」

友人を心配して不安げな顔をする青年『小野寺 ユウスケ』に女性『光 夏海』が励ます。

BOARDの現状は内部が焦げた部分や引つ掻いた様な傷があつた。

ただ、それは通常では出ない程の大きさであつた。

???「チーズー!」

そこに後ろの2人の少年と蝙蝠を引き連れた青年が駆け寄ってくる。

彼こと、今のBOARDの社長を務めてるこの世界の仮面ライダーブレイド『剣立 カズマ』である。

そして彼の後ろにいるのがこの世界の仮面ライダー響鬼『アスム』と仮面ライダーキバ『ワタル』である。蝙蝠はワタルをキバに変身させる『キバットバット3世』だ。

士「だからチーフだ!…それでカズマ、何があつたんだ?」

カズマ「それが…封印されていた?、?、?スートのアンデッドが開放されたんだ。?スートは俺が所持していたから全部大丈夫だけど…」

訂正の言葉を言った後の士の問いに答えたカズマの言葉にユウスケと夏海は驚き、士は内心驚くがそれを出さずにそうか…と答える。

アスム「幸い、見学に来ていた僕とワタル君もカズマさんと協力してアンデッドを数体は再度封印しましたけど…」

ワタル「後は世界の壁を使われて取り逃がして…」

ユウスケ「そうだったのか…それじゃあやばくないか？」

士「ああ…それでカズマ、そいつ等が向かった世界はどこだ？後、何が封印されてないんだ？」

2人の言葉にユウスケはそう呟いて士は同意し、カズマに2つの問いをする。

カズマ「封印されていないのはそれぞれカテゴリーA、J、Q、Kだ…しかも向かった世界は剣崎さん達の世界だ…」

士「なら早速…と行きたい所だが俺や他の皆は“別件”があって無理だから…悪いがカズマ…1人で行ってくれないか？」

カズマ「分かった」

士の指示にカズマは頷いた後、ユウスケがそうだと叫んだ後、話す。
ユウスケ「どうせならギャレンバックルとレンゲルバックル、カリスバックルを持って行ったらどうだ？ あっちにはあっちのカテゴリーAがあるし！」

その言葉にカズマは冷や汗を流し、頬をポリポリする。

カズマ「実は…ギャレンバックルとカリスバックルはアンデッドが開放された時に壊れて修理中…レンゲルバックルは再封印した？スートのカードごとあるアンデッドに盗まれて…」

士「大体分かった…つまりあっちと同じ現状って事かこっちも…」

カズマの言葉に士はため息を付きながらやれやれと頭を横に振る。

何者かにより開放されたアンデッド…カズマはそれを追い、龍騎とファイズとブレイドの世界に向かう。

N E X T

ミッシングエース2：赤のケンプファーとの出会い（後書き）

次回『ミッシングエース3：アンデッドの襲来！決めるダブルブレイド！』

運命の切札を掴み取れ！！

ミッシングエース3：アンデッドの襲来！決めるダブルブレイド！（前書き）

士「3話目だ」

タクミ「学園祭で現れるは…」

シンジ「行って見よう！！」

ミッシングエース3：アンデッドの襲来！決めるダブルブレイド！

とある場所で…

「……なぜすぐにディケイドを倒さないんだ！！　あの時もすぐに行かなかったお陰で解放したアンデッドの大半がまた封印されたのだぞ！！」

茶色のフードに帽子を被った男性『鳴滝』が目の中の人物に叫ぶ。

「……2「落ち着きなよ、物には順序つてのがあるじゃないか？
…それに今襲撃したって、あの世界のライダーズにやられるのが落ちだよ」

その人物は落ち着いた口調で話す。

一方の鳴滝はイライラした顔でその人物を睨む。

「……2「それに僕はあいつ等を操ってない」

鳴滝「なっ！？あの時言った事とは違うじゃないか！！」

まさかの言葉に鳴滝は叫ぶがその人物は臆せずに言う。

「……2「それに、あれ等は困だ！俺が手に入れたかったのはこれだし」

そう言ってその人物は後ろを指す。

そこには…石版があった。

鳴滝「それは…あの世界の『邪神14』の石版…」

???2「丁度あそこの硬いセキュリティに守られていたのを口―
チ達に運ばせてね…そんなもって」

そう言つて4枚のカードを取り出すと鳴滝は目を開く。

鳴滝「それはキングのカード!?封印を解放されたのはまだ封印されてない!後の?のカードは剣立 カズマが持つてるのに…まさか…!?!」

その人物の持つていた4枚のキングのラウズカードを見て驚いていた鳴滝はその人物を見る。

???2「ああ、あんたの世界移動を使わせて貰つて手に入れた別世界のラウズカードさ…」

鳴滝「ならば早くその4枚のカードで作られるカードの生贄を!」

叫ぶ鳴滝を手で制し、その人物は言う。

???2「そんなあつさりとしたのじゃつまんないじゃないか?もう少しゲームを進めてからじゃないと面白くないだろ?」

笑つ様に言つた人物に鳴滝は睨むがそれを気にせずに虚空を見て言う。

???2「さあ、楽しませてくれよ?新しい青のジョーカー」

そんな話がされてる頃…

???「ねえたつくん…」

目の前の奴を見て青年『菊池 啓太郎』は共に見ている巧に前を向いたまま言う。

啓太郎「凄いね…」

巧「そうだな…」

???「ホントに凄いわね星鐵学院の文化祭…」

同意した巧の隣でも女性『園田 真理』は第70回星鐵祭と書かれた看板を見て感嘆の声を上げる。

真司「お～～い」

そんな3人に声をかけたのは真司で手を振って元気に良く駆け寄る。

巧「よう真司」

啓太郎「こんにちは真司さん」

真司「こんにちは啓太郎、真理さん」

真理「こんにちは…あれ？あの子達は？」

それぞれが挨拶した後に真理が真司の周りを見て真司に聞くと…

???「マスター…待ってくださいよ…」

???2「私たちを置いて行かないでおいでまし！」

そう言つて駆け寄るは赤髪の肩まで来る髪に赤のチャイナ服を着た少女、ドラグレッダーと黒髪の膝まで来るのに背中に蝙蝠の翼が付いた黒いゴスロリを着た少女、ダークウィングが来て、その後ろからも複数の女性陣が来る。

真司「それはごめん…」

???3「まったく…僕だつてめっちゃ楽しみにしてたんだよ！」

???4「まったくだよ！これは奢つて貰うからね」

謝る真司に銀髪の背中に来る髪に銀色のジャケットを灰色のタンクトップの上に着た女性、メタルグラスがぶんぶん怒りながら言い、続けて白銀の首まで来る髪に青のビスチェを着た女性、デストワイルダーがそう言う。

真司「ええ…！？勘弁してくれよ…！」

???5「真司が急ぎ過ぎたからだよ」

思いつきり嘆く真司に高校生位の身長少女が真司の肩を叩いて言

う。

彼女は『霧島 美穂』、ライダーバトルに参加していた元ライダーの少女、一度は死んだが真司の願いの後に生き返り、今は睦月達に通う学校でエンジョイしている真司に恋している少女である。

巧「それで入るぞ…真司の掛け持ちでな」

真司「Σちよっ！たっくんは俺の財布を軽くするつもり！？」

真司の言葉にたっくん言うな！と言った後、巧は歩き出し、それに他のメンバーも続くと最後にしょぼんと縦線を背負って真司が続く。

同時刻、ミスコンの更衣室

ナツル「はあゝ…やっぱり気が重い…」

更衣室の前で女状態になり、来る前に渡された衣装の入った2つの紙袋を持ってナツルはため息を付いた後にドアを開けると…

楓「あつ、ナツルさん！」

ドアを開けるとウエディングドレスを着た楓がいて、楓はナツルに気づくと微笑む。

ナツル「はうあ！」

それにナツルは頬を赤く染めて、脳内で男状態の白タクシードを着た自分と今着ているウエディングドレスを着た楓が結婚式場で祝福されている妄想が流れる。

楓「あつ、あのーナツルさん？」

そんなナツルに楓が声をかけた事でナツルは我に返る。

ナツル「えっ、いやその、なんでもない！」

楓「はあ…それより、どうでしょうかこの格好？」

慌ててそう返すにナツルに楓は疑問詞を浮かべるがすぐに切り替えてウエディングドレスの裾を掴んで楓は聞く。

ナツル「うん、凄く綺麗」

楓「ありがとうございます。褒めて貰えるなんて嬉しい！」

ナツルの感想に楓は両手を胸の前で組んで喜ぶ。

???「着替え終わったら、控え室で待機ですよ」

そんな（楓にとって）至福なひと時を破った声に楓はむっとして後ろに振り向くと…

上は赤いビキニに保安官バッジを付け、下は青いジーパンとベルトを付け、手に黒の手のひらだけを覆うグローブを嵌め、首に黄色の

スカーフを巻き、背中にカウボーイハットをぶら下げて楓を睨む紅音がいた。

ナツル「（…空気が重い…）」

そんな2人の睨み合いから起こる空気にナツルは顔を青ざめる。

楓「また邪魔をするんですか美嶋さん？」

紅音「言った筈です。ナツルさんは私が守るって」

そう言ってお互いまた睨み合った後…

楓「それではナツルさん」

紅音「先に控え室に行ってます」

そう言くと2人はナツルの左右を通り過ぎ、控え室を出て行った。

ナツル「ふう〜」

深く息を吐いた後にナツルはよろよろと椅子に座る。

ナツル「いつ、生きた心地がしなかった…」

雫「モテル男は辛いわね」

ナツル「Σうい!？」

呟いた後に隣で腕を組んで座ってる雫にナツルは驚く。

ナツル「何時からそこに!？」

雫「そんな事よりどうするの? 楓も美嶋さんも本気よ? 生徒会長としては、このイベントを無事に成功させたいんだけど…」

ナツルの問いを無視して雫はそう言った後、ナツルを見る。

ナツル「どうするって…」

雫「いざと言う時は責任取ってね…そう言えばその紙袋に入ってるのってあなたが着る奴?」

困った顔をするナツルにそう言った後に雫はナツルの傍に置いてる紙袋2つを見て聞く。

ナツル「ああ…そう言えば見てなかったな…」

そう言つてナツルは1つ目の紙袋の中を見る…

ナツル「!!!!」

そしてその中身に驚愕する。

雫「どうしたの?…あら?」

驚愕した顔で固まったナツルに雫は紙袋の中身を見る。

ちなみに1つ目の中身については漫画版の4巻や小説版の3巻を見れば分かるぞ。

雫「…これを着るの？」

ナツル「着る訳ないだろ！！…もう1つは…」

雫の問いに怒鳴った後にナツルは2つ目の紙袋を見て…安堵する。

ナツル「良かった〜さっきよりマシだ〜」

雫「そう、良かったわね」

思いつきり安堵の息を吐くナツルに雫はそう言った後に立ち上がる。

ナツル「なんだよ？」

雫「別に、そろそろ着替えようと思って」

ナツル「そうかい…じゃあ」

そう言つてナツルは紙袋を持って出ようとする。

雫「あら？私の着替えに興味がないの？」

ナツル「ねーよ」

腰に手を当てる雫にナツルは振り向かずと言う。

雫「つまらない男ね」

ナツル「それで結構だよ」

まだ言う事にナツルはドアを開けて出る。

そんな会話がされてる頃、剣崎はと言うと…

剣崎「今の所は異常なしだな…」

見回りながら剣崎はそう呟いた後に心の中である事を考えていた。

剣崎「（あの雫ちゃんの言った『そうそう、次に来る時は男の姿でお願いね』って言葉…ナツルに向けての言葉だったな…そう言えば男子の方にも同じ苗字で同じ名前の子がいたけど…どうもな…他にも紅音も同じ名前で性別も同じ子がいるけど…髪の色とか性格が違
うしな…）」

うゝむと腕を組んで歩いていた時…

剣崎「!？」

剣崎の顔を強張る。

剣崎「（馬鹿な！この気配は!?!?!）」

そう考えた後、剣崎はブレイバツクルを装着し、走る。

剣崎が向かうは…ミスコンの会場

そんなミスコンの会場では緊迫のムードに包まれていた。

真司「ねえ たっくん…」（小声）

巧「何だ？（小声）」

目の前の奴に真司は小声で巧に話しかけ、巧も小声で聞く。

真司「… あれっ お芝居じゃないよね？（小声）」

巧「ああ……確実にな（小声）」

舞台で男装した雫が短剣を構え、同じく男装していたが服がボロボロになって雫が羽織っていたマントで体を隠してるナツルに胸の前で手を組んでいる楓、そして手を押さえてるケンプファーになった紅音がいる。

そして雫がアクションを起こそうとした時……

バカーン!!!

ブレイド「うわあああああ！！！！！！」

4人「!？」

いきなり壁が壊れ、ブレイドがそこから転がり、4人の前に現れる。
ますみ「おおっと!?! いきなり誰か分からない人が現れた!! 一体何者何でしょうか!?!」

誰もが驚く中、実況していた黄色のバニースーツを着たますみが叫ぶ。

ナツル「ブレイド!?!」

紅音「何でお前が?」

いきなりの人物にナツルと紅音が発した時、ブレイドは膝を付いた状態でナツルと紅音に気づく。

ブレイド「君達危険だ! 早く離れるんだ!」

ナツル「えっ? それはと言うっ…」

意味だ…とナツルが聞こうとした時…

???「ぐおおおおおおお!?!?!」

???「があああああああ!?!?!」

ブレイドを吹き飛ばした者達が現れ、それに真司、巧、そして来ていた始は驚き眩く。

真司&巧&始「…アンデッド」

2体のアンデッド…？スートカテゴリー』『ピーコックアンデッド』と？スートカテゴリー』『ウルファンデッド』はブレイドに襲い掛かる。

ブレイド「くっ！？」

ブレイラウザーで襲い掛かる2体のアンデッドの攻撃を掃くが掃けきれずに攻撃を受けてしまう。

紅音「このやる！」

その光景に紅音は銃を取り出すとピーコックアンデッドに向けて放ち、雫も短剣をウルファンデッドに投げる。

その攻撃にピーコックアンデッドは火炎弾を出して銃弾を防ぎ、ウルファンデッドは短剣を弾き飛ばす。

ブレイド「なっ、何なんだあれ？」

ナツル「（えっ？）」

呆然として呟くブレイドにナツルは怪訝とした顔でブレイドを見る。

なぜならブレイドは自分達を見ているからだ。

それなのにあの発言、矛盾しているとナツルが思った時…その答えはすぐに分かった。

ブレイラウザー「タツクル！」

その音声の後…ピーコックアンデッドの後ろから…もう1人のブレイドが突進攻撃をした。

紅音「なっ!?!」

雫「ブレイドがもう1人?」

ピーコックアンデッドを吹き飛ばして現れたのに驚く紅音にそんなに驚いてる様に見せてないが雫が呟いた後に現れたブレイド(表記はブレイド2)がウルファンデッドと斬った後に離れたブレイド(表記はブレイド1)の隣に立つ。

ブレイド2「行くぞ!」

ブレイド1「はい!」

その言葉の後、ブレイド2はピーコックアンデッドにブレイド1はウルファンデッドに向かって行く。

ブレイド2「ウェイ!ウェイ!ウエエエエイ!」

ブレイド1「はっ! たっ! でやあ!」

ブレイド2がピーコックアンデッドを連続で切り裂き、ブレイド1は打撃を加えた斬撃をウルファンデッドに加えて行く。

そして2体のアンデッドが一箇所に纏まった瞬間、2人のブレイドは3枚のラウズカードを取り出す。

ブレイラウザー「キック」

まず最初に？5・キックのカードがラウズされると共に封印されていたローカストアンデッドは上へジャンプし…

ブレイラウザー「サンダー」

その次に？6・サンダーのカードがラウズされると封印されていたデИАーアンデッドは角から電撃を放出し…

ブレイラウザー「マツハ」

最後に？9・マツハのカードがラウズされると封印されていたジャガーアンデッドが高速で動く。

ブレイラウザー「ライトニングソニック」

その音声の後、ブレイド達の後ろに3枚のカードの幻影が現れて、それがブレイド達に吸収されると稲妻が迸る。

ダブルブレイド「はあああああああ！！！！」

気合の声を上げてブレイラウザーを地面に刺し、2体のアンデッドを見た後に高速で駆け出してるその途中で飛び上がり…

ブレイド1「はああああはっ！！」

ブレイド2「ウエエエイウエイ！！」

稲妻を纏った右足をそれぞれ2体のアンデッドに蹴り出す。

それを受けた2体のアンデッドを背を向けて2人のブレイドは着地する。

2体のアンデッドはよろけた後に倒れ…

ドカーーン!!

爆発した。

その後に倒れた腰部のアンデッドバックルを展開した2体のアンデッドがいた。

それにブレイド1はすかさず2枚のプロパーブランクを取り出しバツクルに向けて投げ飛ばすとそれぞれのバックルに刺さり…

シューイイーン

2体のアンデッドはカードに吸収、封印されてプライムベクタとなると2枚のカードはブレイド1の手に戻る。

ブレイド1「これで残りは後10体…」

静まり返った会場で2枚のカードを見てブレイド1が呟いた後にカードを仕舞い、2枚のカードを取り出すとブレイド2も同じカードを取り出す。

ブレイラウザー「タイム! マッハ」

その音声の後、ブレイド達の周りの時間が止まり、続けてマッハの効果で2人のブレイドは高速でその場を出る。

そして2人が出ると同時に時が再び刻みだす。

紅音「いねえ!？」

楓「どこに行つたんですか？」

2人が言った後に会場は騒然となり、それに真司、巧、始は外に出る。

2人のブレイドは人気のない場所に着くと変身を解除する。

カズマ「ありがとうございます剣崎さん」

ブレイド1ことカズマがお礼を言い、ブレイド2こと剣崎が強張った顔でカズマを見る。

剣崎「カズマ…詳しく教えてくれないか？　なぜアンデッドが解放されているのかについて」

NEXT

ミッシングエース3：アンデッドの襲来！決めるダブルブレイド！（後書き）

次回『ミッシングエース4：4人目のケンプファーと4人のエース』

運命の切札を掴み取れ！！

ミッシングエース4：4人目のケンプファーと4人のエース（前書き）

士「4話目だ」

タクミ「あんまりないパターンですね」

シンジ「そうだな」

ミッシングエース4：4人目のケンプファーと4人のエース

剣崎「何だって！？　？を除いたアンデッドが全て解放されたって！？」

剣崎と会場を抜け出た始、真司、巧はカズマの言葉に目を開いて驚く。

カズマ「はい、A、J、Q、Kを除いたアンデッドは封印し、さつき？と？のJを封印出来たので後10体です」

巧「それでも厄介だな、？はJとAを除けば大丈夫だが後のが厄介だな」

真司「そうだな……」

カズマの言葉に巧は剣崎から聞いた上級アンデッドを思い出しながら呟き、その呟きに真司は同意する。

始「…剣立、カリスバツクルを貸して貰えないか？」

カズマからアンデッド解放の事を聞いてから考えていた始が顔を上げてカズマに頼み込む。

カズマ「貸すのだけど…そのアンデッド解放の際にカリスバツクルはギャレンバツクルと一緒に壊れて修理中でレンゲルバツクルはあるアンデッドに奪われて…しかも封印した？スートのカードと一緒に…」

申し訳ない顔をするカズマにそうか…と呟き、始は考える。

剣崎「始…ジョーカーにはならなくてくれ、これは俺がなんとかするから」

そんな始に剣崎は肩を叩いてそう言う。

巧「俺も協力する」

真司「俺も！アンデッド封印手伝う！」

カズマ「すいません、乾さん、城戸さん、剣崎さん」

翌日

橘「そうなのか…まさか剣立の方のアンデッドが解放されるとは…」

翌朝、電話ですぐに来た橘が剣崎と共に星鐵学院の廊下を歩きながら剣崎から聞いて呟く。

剣崎「アンデッドサーチャーはどうなんですか？」

橘「……………」

剣崎の問いに橘は長く黙る。それを見た剣崎は顔を強張る。

剣崎「……何かあったんですか？」

橘「…剣立の言うアンデッドが解放された日、BOARDの研究所に何者かが侵入し、アンデッドサーチャーを破壊した。しかも徹底的にプログラムやバックアップの物も全て破壊されてしまった…しかも痕跡を残さずにだ。今は広瀬が一から作り直してくれてはいるがしばらくは自力で探すしかない」

橘の言葉に剣崎は驚いた後に脳裏にある人物が浮かび上がる。

剣崎「(まさか…鳴滝の仕業か?)」

ディケイド側のライダー達にディケイドである土を悪魔と呼ぶ男を浮かべた後に考える。

剣崎「(もし鳴滝なら痕跡がないのは納得出来る…だけど…なぜアンデッドを解放した後すぐに土を襲わなかったんだ?)」

もし鳴滝ならアンデッドをすぐに解放した後土を襲うだろうが今回は世界の壁を使い自分達の所に着たのが剣崎には疑問が残っていた。

橘「それで剣崎…」

剣崎「はい橘さん…」

橘に呼ばれ、剣崎は考えを中断して橘の方を向くと…

橘「奢ってくれないか?…朝、何も食べずにいち早く来たものだから腹が減って…」

剣崎「ダディヤーナザアン！ア نداオレアノカネエーヲヘラスキデ
イ スカー！？Σ（owo）」（訳、橘さん！あんた俺の金を減らす
気ですか！？）

お腹を鳴らす橘に剣崎はそう叫んだ。

瀬能ナツルは目の前の光景に目が離れなかった。

昨日、ダブルブレイドとアンデッドの登場でミスコンは中止、控え
室で男に戻った状態で雫にキスされたり、朝になって外国に行つて
いた親友の女の子『近藤 水琴』が文化祭の1日目に帰っていて裸
エプロンでナツルの前に現れたりして大変だったり、自分だけメイ
ド服が改造メイド服（詳しく知りたい人はアニメの第6話か漫画版
の4巻などを見れば分かるぞ）だったりなどで苦労したが雫に呼ば
れて着た楓と共に学園を見学して楽しい（&安らぎの）ひと時を満
喫していた時に昼食を食べようと思ひ屋台に来た時、それを見た。

橘「お代わりをくれ」

剣崎「オデノカネエーバボドボドダァ…」（訳、俺の金がボロボロ
だ）

焼きそばをお代わり食べている橘にその隣で真っ白に燃え尽きてる
剣崎の姿があつた。

それ位でナツルは驚かないが橘の隣に置かれたパックの量を見て驚

いた。

その量が…軽く10個もあった。

ナツル「だっ、大丈夫ですか剣崎さん」

剣崎「…ナツルちゃん」

ナツルは恐る恐る剣崎に声をかけると剣崎は顔を上げてナツルを見る。

ナツル「3日も食べてなかった!？」

橘「ああ…色々と仕事が忙しくてな…オマケに急に出たものだから財布も忘れてな…それで剣崎に奢って貰っていたんだ」

お互いに自己紹介した後に隣に座って橘から発された言葉にナツルは驚き、楓も眼を開いて驚く。

楓「そんなに仕事が急がしいんですか？」

橘「まあね…」

剣崎「俺のお金がさらに少なくなった…」

楓の言った事に橘は苦笑し、その隣で焼きそばを食べながら剣崎はぶつぶつ言つ。

ナツル「(ん?)」

そんな剣崎に苦笑していたナツルは視線を感じ、周りを見ると…そこに銀髪の少女がナツルを見ていて、その右手首には…

ナツル「（！？）」

自分達と同じ誓約の腕輪があり…その色は赤であった。

少女はクルリと向きを変えると顔をナツルの方に向けた後にまた前を向いて走り出す。

ナツル「すいません！ちょっと手洗いに行つて来ます！」

それにナツルはそう言つと少女を追いかける。

楓「あつ、ナツルさん！」

剣崎「（橘さん…俺も行きます）」

橘「（分かつた）」

走るナツルに手を伸ばす楓の隣で同じ様に気づいた剣崎は小声で橘に言った後にナツルの後を追いかける。

少女を追いかけていたナツルは噴水の所に来ていた。

ナツル「（どこ行つた？）」

周りを見て少女を探すナツルに…

???「んはっはっはっはっ!!」

ナツル「はっ!」

笑い声が耳に入り、ナツルはした方を見ると建物の上に右手に刀を持ってその刃の後ろを肩に当てて仁王立ちする少女がいた。

少女「こんな簡単に逃げられるなんて、青ってマヌケね」

ナツルを見下ろしながら少女は続けて言う。

少女「好都合だわ、まさか噂の女ナツルがケンプファーだったとわね?」

ナツル「まつ、待て!俺は戦いたくないんだ!話し合おう」「五月蠅いよ!」「!」

少女の言葉にナツルは慌てて話に持ち込もうとするが遮られる。

少女「あんた元々気に入らなかったの!丁度良いから、とつと死んで貰うわ!」

言葉と共に少女は刀を前に構える。

それにナツルの足が後ろに下がる。

少女「いざ尋常に…勝負!」

それを合図に少女は飛び上がり、1回転した後、刀をナツルに向けて振り下ろす。

その斬撃にナツルは後ろに飛んで避ける。

少女「逃げんな！」

ナツル「おっ、落ち着けて！」

それに少女は追いかけて、噴水の後ろに隠れたナツルが停止の声を上げるが少女はそれをスルーし、刀を振るう。

ズバツ！

ナツルはそれを避けたが噴水は綺麗に切れた。

少女「もういっちょ！」

バッカーン！！

続けざまに斬撃が再び来るがそれも避けると同時に噴水は崩壊し、水が吹き上がる。

2人は壊れて水を吹き上がらせる噴水を挟んで対峙する。

少女「あたし各国色々旅して鍛えてあんのよ、あんたなんかには負けないわ！」

ナツル「！おっ、お前……」

少女「まだまだ！」

刀を振って少女が言った事にナツルが目を開いてる間に少女は接近して刀を振るう。

それをナツルはジャンプして避け、続けざまに来る斬撃を避けて行く。

ナツル「ちょ、ちょっと待て！お前もしかして…」

少女「あんたさ、謎の美少女とか言われて良い気なってるらしいじゃないの！」

少女が誰なのかに気が付き、停止の声をあげるナツルだが少女はそれを聞かずにそう言い…

少女「なんか男子にも女子にも人気があるし、男のナツルが好きだなんて言っし！」

ナツル「言ってない！（ドンー）」

続けて放たれた事（特に最後）にナツルは否定の言葉を叫んだ後に背中が噴水の周りにある内の1つの木にぶつかる。

少女「チェストー!!」

そして少女の刀がナツルを切り裂こうとした時…

???「スラッシュ」

ガギッ！

機械音がするのと同時に鈍い音が響き…

シユルシユルシユルシユル…ザクッ！

何かが空を舞う音がした後に地面に刺さる。

それは…少女が持っていた刀の先端であつた。

少女「えっ？」

綺麗に刀身が斬られ、少女がいきなりの事に目を丸くしてると…

ゴーン！！

少女「！！？」

頭に衝撃が来て少女は先端が切れた刀を落とし、頭を抑える。

ナツル「ブレイド…」

ナツルはナツルを助け、少女に鉄拳を落とした人物…ブレイドを見ながら呟いた後に木を背にズルズルと滑り、地面に座り込む。

紅音「相棒！」

そこにケンプファーとなった紅音が来る。

ブレイド「大丈夫か？」

ナツル「ああ…助かった」

ブレイドの問いにナツルはそう答えた後に安堵の息を吐いた。

それを尻目にブレイドは目の前の頭を抑える少女に言う。

ブレイド「危ないじゃないか！！　もし俺が止めてなかったら彼女は死んでいたぞ！」

紅音「後言つて置くがこの馬鹿野郎をぶっ殺して良いのはあたしだけだ！」

ナツル「おい！」

ブレイドの説教の後に紅音の言つた事にナツルはつつこむがスルーされる。

少女は頭を抑えながら涙目でブレイドを見る。

少女「何するのよ！あたしの邪魔しないでよ」「いい加減にしろ水琴！」「ふえっ！？何であたしの名前を！？」

ブレイド「えっ！？　知り合い？」

怒鳴った少女…水琴はナツルの怒鳴り声に驚き、紅音は目を丸くしてナツルを見て、ブレイドはナツルと水琴を交互に見ながら聞く。

雫「もう収まってるようね」

そこにケンプファーとなった雫がそう言いながら来る。

水琴「えっ？生徒会長？何で？」

雫を見て驚く水琴に雫は制服の袖を捲って自分の腕輪を見せる。

水琴「赤いケンプファー…」

雫「その2人、変身を解きなさい」

ブレイド「どう言う事だ？ケンプファーって俺達のように変身してるのか？」

呆然とする水琴を見ずに雫はナツルと紅音を見てそう言う。

ブレイドは彼女から発された言葉にナツル達を見る。

紅音「ちっ、この女王気取りのクソ尼が…」

ナツル「えっと…戻れるかな？」

舌打ちして悪態付く紅音の後ろで自分の腕輪を見るナツル。

その間に紅音は目を閉じると光に包まれ…

紅音「ふう…眼鏡眼鏡」

ブレイド「頭の上にあるよ…つかええ！？」

水琴「ええっ！？紅音ちゃん！？」

元の姿に戻り、眼鏡を探す紅音にブレイドが指摘した後に驚きの声を上げて、水琴も同じ様に驚きの声を上げる。

ナツル「ええい！ 戻れ！！」

ピカアアア！！

その間にナツルが腕輪に向かって叫ぶと腕輪が光り、紅音と同じ様に光に包まれた後…

水琴「えっ？」

ブレイド「はっ？」

ナツル「……………」

服装が改造メイド服のまんまの元の男状態のナツルが立っていた。

水琴「なっ、ナツル！？」

ナツル「すまん」

ブレイド「だからあの発言だったのか（ポン）」

驚く水琴にナツルは胸の前で手を出して謝り、ブレイドはあの時（ミッシングエース2で）の雫の発言にポンと納得する。

雫「それで…あなたも変身を解いたら？」

ブレイド「そうしたいけど…どうやらそれをしない方が良さそうだ」

そう言っただけでブレイドは構えて、雫の後ろを睨む。

ブレイドのその言葉に雫は前に飛び出して後ろに振り返った後に短剣を投げる。

そして投げられた短剣は雫の後ろの木に隠れていた何かが弾き返す。

ナツル「なっ、何だ？」

紅音「バカ！早く変身しろ！」

いきなりの事にナツルが戸惑う中、再びケンプファーになった紅音が銃を構えて言う。

それにナツルは慌てた後に意識を集中させると再びケンプファー状態の女になる。

それぞれが構える中、現れたのは…

ブレイド「3体のカテゴリーAに？ スートカテゴリーJも！」

？ スートカテゴリーJ『エレファントアンデッド』とその後ろに？ スートカテゴリーA『スタッグビートルアンデッド』、？ スートカテゴリーA『スパイダーアンデッド』、そして始が仮面ライダーとして姿を借りていた？ スートカテゴリーA『マンティスアンデッド』がいた。

ブレイド「（厄介だ、アンデッド1体ならともかく、4体も来るなんて…）」

ブレイド自身、ジャックフォームになればエレファントアンデッドには劣らないが相手は他にもカテゴリーAが3体いる。

キングフォームになれば楽勝だろうがブレイドはキングフォームを使わない…否、使えない。

それはなぜか…見られてるからだ。

ブレイド「（誰だ？俺を見ているのは…）」

自分に来る視線にブレイドはエレファントアンデッド達を見ながら視線の主を探す。

だが上手く隠れてるのかアンデッドになった事で上ったブレイドの五感に視線以外が見つからない。

ブレイド「（この人物が誰か分かるまでキングフォームは使えないな…）」

そう思った後にエレファントアンデッドの手に持っていた鉄球が光る。

ブレイド「！避ける！」

ブレイドの警告が発されると同時にエレファントドーパントの持つ鉄球から光の球が放たれ、それにブレイドとナツル達は左右に避けた後に鉄球から放たれた攻撃は彼らがいた場所へと炸裂する。

紅音「こんにやる！」

避けた後に体制を立て直した紅音が銃でエレファントアンデッドを攻撃するが彼の前にスタッグビートルアンデッドが出て手に持つ双剣で銃弾を防いで行く。

ナツル「この！」

雫「はっ！」

続いてナツルが手から火炎弾を放ち、雫が短剣を投げるが今度はエレファントアンデッド自身が自分しか使えない武器『ノーズストライカー』で防ぐ。

ブレイドはすぐさまジャックフォームに強化変身しようとするがスパイダーアンデッドとマンティスアンデッドがさせずと攻撃する。

ブレイド「くっ！？」

すぐさまブレイラウザーで2体の攻撃を弾く。

龍騎「ブレイドー！」

そこに龍騎とファイズ、カズマの変身したブレイド（表記はカズマブレイド）が駆け付けるが…

そんな彼らの行く手を遮る集団が現れる。

ファイズ「なっ！？」

龍騎「こいつ等はローチ!？」

現れた集団『ダークローチ』にファイズと龍騎、そしてブレイドは驚く。

本来ダークローチはジョーカーが勝者となった時にしか出ない言わばリセットの役目を持つ個体だが今はモノリスはなくなっているの
で存在する事自体がありえないのだ。

龍騎「どうなってんだこれ!」

ファイズ「だが…分かるのはこいつ等は俺達の足止めが役目らしい
な」

カズマブレイド「そこをどけっ!」

3人は己の武器を構えるとダークローチの集団と戦闘を開始する。

ブレイド「うわっ!？」

一方のブレイドは2体のアンデッドの攻撃にブレイドに刀を折られて参加してない水琴の所まで吹っ飛ぶ。

水琴「わわわ!大丈夫!？」

ブレイド「ああ…」

声をかける水琴にブレイドはそう言った後に立ち上がる。

ブレイド「（こうなったら…）」

ブレイドはナツル達が戦っているエレファントアンデッドにスタッグビートルアンデッドと自分の前にいるスパイダーとマンティスの2体のアンデッドを見た後に4枚のラウズカードを取り出す。

そして…3枚のラウズカードを前方に投げた後に最後の1枚をブレイラウザーにラウズする。

ブレイラウザー「リモート」

その音声と共にブレイラウザーの先端からラウズカード？10『リモートテイピア』の効果を表す光が放たれ、3枚のカードに当たるとその中に封印されていたアンデッドを解放した。

否…した筈だった。

ブレイド「えっ？」

目の前の光景にブレイドは目を見開いて驚く。

自分が呼び出したのはアンデッドの筈、それなのに…

1人は確かに呼び出されたのだが後の2体…いや2人は違った。

紅音「おいナツル…あれって…」

ナツル「ああ…」

そしてスタッグビートルアンデッドから離れた紅音とナツルはその

光景に驚く。

1人目はブレイドと似た感じだが赤のスーツに胸のマークが？を象った銀色の鎧で仮面がクワガタを模していて緑色の瞳の仮面の戦士
2人目は今日の前にいるマンティスアンデッドと同じ外見だが腰のバツクルが少し変わっている仮面の戦士

3人目は緑色のスーツに仮面に緑色の蜘蛛に紫の瞳、スーツの上に胸の？を象った金の鎧を纏いし仮面の戦士

ブレイド「『ギャレン』『カリス』『レンゲル』…」

ブレイドは自分の前に立つ3人の仮面の戦士、『仮面ライダーギャレン』『仮面ライダーカリス』『仮面ライダーレンゲル』の名を呟く。

予想外の光景にブレイドは驚いていた。

普通、リモートでラウズカードからアンデッドを解放すると一部例外が含まれるが呼び出したライダーの頼みや命令を聞く。

勿論、それはカテゴリーAも含まれており、普通ならアンデッドの状態で出る。

だからこそまさかのライダーの姿で出た事に驚きを隠せない。

立っていた3人はそれぞれ走り出した後にそれぞれがアンデッドと対峙する。

ギャレンはスタッグビートルアンデッドと…

カリスはマンティスアンデッドと…

そしてレンゲルはスパイダーアンデッドと戦う。

ブレイドは驚きから戻った後にラウズアブゾーバーから2枚のカードを取り出した後にまず？Qを装填する。

ラウズアブゾーバー「ABSORB QUEEN」

そして？Jをラウズする

ラウズアブゾーバー「FUSION JACK」

その音声の後にブレイドはジャックフォームへと強化変身し、エレファントアンデッドへ立ち向かう。

ギャレン「ふっ！ はっ！」

まずギャレンはスタッグビートルアンデッドに接近し、パンチとキックの連打を浴びせた後にバックステップすると同時に右腰のラウザーホルスターに収められた自分の武器『醒銃ギャレンラウザー』を引き抜くと同時に銃弾を浴びせる。

ナツル「食らえ！」

怯んだ隙を逃さずナツルが手から火炎弾を放つとスタッグビートルアンデッドは吹き飛ぶ。

カリス「ふっ！ たっ！」

こちらカリスはマンティスアンデッドと素早い戦いをしてお互いに相手の攻撃を防いで行く。

紅音「あたしを無視するな！」

そんな互角の戦いに紅音が割り込んでマンティスアンデッドに銃撃を食らわす間、カリスは専用武器『醒弓カリスアロー』を手に取り、自分のバツクル部分のラウザーユニットをコネクトした後にフォーアローを放ってマンティスアンデッドを攻撃する。

レンゲル「むん！」

そしてレンゲルはスパイダーアンデッドの放つ糸を避けるか自分の武器『醒杖レンゲルラウザー』で切り裂いていた。

ジャラッ！ガキッ！

スパイダーアンデッド「！？」

レンゲルに向けて糸を放っていたスパイダーアンデッドは飛んで来た2本の短剣に付いていた鎖に雁字搦めにされる。

雫「のんびりしてる程甘くはないわ」

もがくスパイダーアンデッドに雫がそう言った後にレンゲルが接近して連続でスパイダーアンデッドにラッシュ攻撃をする。

ブレイドJF「はっ！ウェイ！」

最後にブレイドJFはエレファントアンデッドの鉄球から放たれる攻撃を飛んで避け、近づきざまに切り裂く。

4体のアンデッドが一箇所に集まり、それぞれが止めのチャンスと感じたブレイドJFは自分の必殺技の為のカードと他の3人の必殺技に必要なカードを取り出して投げ渡す。

一方のローチ軍団と戦っていた龍騎達も決める所であった。

龍騎は2枚のカードを取り出すとそれをドラグバイザーにベントインする。

ドラグバイザー「ストライクベント」×2

????&????2「ギヤオオオオオン!!」

その音声の後に彼と契約してる『無双龍ドラグレッダー』と『暗黒龍ドラグブラッカー』の顔を模した『ドラグクロー』がそれぞれ右手にドラグレッダーの、左手にドラグブラッカーのが龍騎に装備される。

龍騎「はあああああ!!」

2個のドラグクローを装備した龍騎は両手を後ろに引く。

????「Ready」

そしてファイズは自分のデジタルカメラ型パンチングユニット『ファイズショット』にミッシンメモリを装填した後にファイズフ

オンの『ENTER』を押す。

ファイズフォン「Exceed Charge」

その音声の後にファイズフォンからファイズの腕を伝ってファイズショットにフォトンブラッドが伝わっていく。

それにファイズはファイズショットを装着した腕を引く。

カズマブレイラウザー「ビート」

最後にカズマブレイドが『?3・ビート』のカードをラウズすると?3の中に封印されているライオンアンデッドが吼え…

カズマブレイラウザー「サンダー」

最後に?6・サンダーがラウズされると封印されていたディアアンデッドは角から電撃を放出する。

カズマブレイラウザー「ライトニングフィスト」

その音声の後にカズマブレイドの後ろに2枚のカードの幻影が現れるとカズマブレイドに吸収され右腕に稲妻が迸る、カズマブレイドは2人と同じ様に右腕を後ろに引き、ローチを見定める。

龍騎「おりゃあああ!!!」

ファイズ「はっ!」

カズマブレイド「いつけええええ!!!」

突き出すと同時に放たれる龍騎の『昇双竜突破』とファイズの『グランインパクト』、カズマブレイドの『ライトニングフィスト』の赤と紫が混じった炎の火炎弾と閃光の鉄拳と迅雷の鉄拳がローチ達を吹き飛ばすと同時に…

ドカーーン！！

爆発し、ローチ達は跡形もなく消滅した。

そしてアンデッドと戦っていたブレイド達も決める為にラウズカードをラウズする。

ギャレンラウザー「ドロップ」

まずギャレンが『？5・ドロップ』をラウズすると封印されていたホエールアンデッドが尾を振り…

ギャレンラウザー「ファイア」

次に『？6・ファイア』をラウズすると封印されていたファイアフライアンデッドが火の粉を放ち…

ギャレンラウザー「ジェミニ」

最後に『？9・ジェミニ』をラウズすると封印されていたゼブラアンデッドが分身する。

ギャレンラウザー「バーニングディバイド」

その音声の後にギャレンの後ろにカードの幻影が現れてギャレンに吸収される。

カリスラウザー「フロート」

続いてカリスが『?4・フロート』をラウズすると封印されていたドラゴンフライアンデッドが宙を舞い…

カリスラウザー「ドリル」

次に『?5・ドリル』をラウズすると封印されていたシェルアンデッドが口をドリルの様に回転させ…

カリスラウザー「トルネード」

最後に『?6・トルネード』をラウズすると封印されていたホークアンデッドが風を起こす。

カリスラウザー「スピニングダンス」

その音声の後にカリスもギャレン同様に後ろにカードの幻影が現れてカリスに吸収される。

レンゲルラウザー「ラッシュ」

3番目にレンゲルが『?4・ラッシュ』をラウズすると封印されていたライノセラスアンデッドが突進し…

レンゲルラウザー「バイト」

次に『？5・バイト』をラウズすると封印されていたコブラアンデッドがしゃあ〜と吼え…

レンゲルラウザー「ブリザード」

最後に『？6・ブリザード』をラウズすると封印されていたポーラーベアアンデッドが吹雪を起こす。

レンゲルラウザー「ブリザードインパクト」

その音声の後にレンゲルの前にカードの幻影が現れた後にレンゲルに吸収される。

ブレイラウザー「キック」

最後にブレイドJFが最初に？5・キックのカードがラウズされると共に封印されていたローカストアンデッドは上へジャンプし…

ブレイラウザー「サンダー」

その次に？6・サンダーのカードがラウズされると封印されていたディアアンデッドは角から電撃を放出し…

ブレイラウザー「マッハ」

最後に？9・マッハのカードがラウズされると封印されていたジャガーアンデッドが高速で動く。

ブレイラウザー「ライトニングソニック」

その音声の後、ブレイドJFの後ろに3枚のカードの幻影が現れて、それがブレイドJFに吸収されると稲妻が迸る。

ブレイドJF「はあああああああ！！！！！！」

ブレイドJFは体を右に捻り、戻した後に自分の前にブレイラウザーを掲げた後に地面に刺して走りエレファントアンデッドに向かいその途中でジャンプしてキック体制に入り、カリスは激しい竜巻に包まれながら上昇し足をマンティスアンデッドに向けてドリルキックを、ギャレンはジャンプして宙返りし、その途中で分身を作り出しスタッグビートルアンデッドに、レンゲルはダッシュしてその途中で大きくジャンプしながら冷気をスパイダーアンデッドに吹き付け動きを止めた後…

ブレイドJF「ウエエエエエエエー！！」

カリス「うおおおおおおおー！！」

ギャレン「はあああああああー！！」

レンゲル「でああああああー！！」

ブレイドJFの稲妻の蹴り、ライトニングソニックがエレファントアンデッドに炸裂し、カリスの風を纏ってドリルキック『スピニングダンス』をマンティスアンデッドに打ち込み、ギャレンは分身と共に放つ炎の力を込めた二段つま先蹴り『バーニングディバイド』がスタッグビートルアンデッドの頭上から打ち込まれ、レンゲルの両足で挟み砕く『ブリザードクラッシュ』強化版『ブリザードインパクト』が凍りついたスパイダーアンデッドに炸裂する。

同時に必殺技を受けたアンデッド達は吹き飛ぶと共に…

ドカーーン!!

爆発し、4人のライダーはそれを背に着地する。

その後に倒れた腰部のアンデッドバックルを展開した4体のアンデッドがいた。

ローチを倒したカズマブレイドが4枚のプロパーblankを取り出しバックルに向けて投げ飛ばすと4体のバックルに刺さり…

シューイーン

4体のアンデッドはカードに吸収、封印されてプライムベクタとなるとカズマブレイドの手に戻ろうとした時…

バツ!

木の裏から現れた影が4枚の内の2枚の?スートのカードを取ると着地する。

ブレイドJF「何だ!?!」

いきなりの事にブレイドJF達は驚いてる間、その取った人物の姿を見ると驚く。

ブレイドJF「タイガーアンデッド!?!」

カズマブレイド「あつ、あいつです!?! スートのカードとレンゲ

ルバックルを奪った！」

立ち上がり？Aと？Jのラウズカードを見るアンデッド、？スートカテゴリーQ『タイガーアンデッド』を見てブレイドJFは驚き、カズマブレイドがタイガーアンデッドを指して叫ぶ。

それにギャレン、カリス、レンゲルは走るがその前にタイガーアンデッドが地面を殴り砂煙を発生させて、3人を足止めと同時に目くらましする。

砂煙が収まるとタイガーアンデッドの姿はなかった。

カズマブレイド「逃げられたか…」

タイガーアンデッドのいた場所に駆け寄り、周りを見てカズマブレイドが呟いた後にギャレン、カリス、レンゲルはカードに戻ると同時にブレイドJFの手に戻る。

雫「それで終わった事ですし、変身を解いたら？」

そんな3枚のカテゴリーAのカードを見ていたブレイドJFに雫がそう言っているとブレイドJFは龍騎、ファイズ、カズマブレイドと交互に顔を見た後にそれぞれ変身を解く。

ナツル「あんたは！？」

紅音「剣崎 一真！」

雫「やっぱり…」

水琴「えっ？えっ？」

変身を解いた剣崎にナツルと紅音は驚きの声を上げて、雫は納得した顔をし、水琴は付いて行けてない顔で剣崎や巧、真司とカズマを見る。

封印されていないアンデッド、残り6体

N E X T

ミッシングエース4：4人目のケンプファーと4人のエース（後書き）

次回『サイドエース1：再誕の緑氷の槍騎士』

運命の切札を掴み取れ！！

サイドエース1：再誕の緑氷の槍騎士（前書き）

士「今回はミッシングエース4と5の間のお話だ」

カズマ「今回は…」

タクミ「だね…」

サイドエース1：再誕の緑氷の槍騎士

睦月「はあ〜」

剣崎がケンプファーと出会った頃、睦月は剣崎とは別に苦労していた。

その理由は…

???「お〜い睦月〜」

彼に身長が小学生位しかない青髪の少女が話しかけてきた。

その話しかけて来た少女『泉 こなた』こそ彼の苦労している理由である。

睦月が此処『陵桜学園高等部』に転校してから色々と彼女や彼女の知り合いに担当の教師のペースに振り回されており、それで一緒に転校して来た望美が黒くなるなどで苦労している。

悪い子じゃないのだが色々と一癖のある子達などで睦月やこなたの知り合いである『柊 かがみ』がツツコミに回るので色々と疲れるのだ。

睦月「ふう〜」

こなた「あのね、人を見てため息付くのは失礼だぞ〜」

ため息を吐いた睦月にこなたはそう注意する。

睦月「ため息の原因が何言ってるんだよ…」

???「そうよこなた…あんたや日下部がちよっかい出してるから上条君は怒った望美を宥めるのに苦労してるのよ」

そう言ったのはさっき文中で言っていた少女、かがみである。

こなた「おっ、かつがみくん」

かがみに気づいたのかこなたはかがみに抱き付く。

かがみ「ちょ、こんな所で抱き付かないでよ／＼／」

こなた「よいではないかよいではないか」

抱き付かれた事で顔を赤くするかがみにこなたはかがみの腰に顔をすりすりする。

???「何時も通り仲がよろしいですねお2人とも」

???2「お姉ちゃん来てたんだね」

そう言うて来るは最初に言ったのは「高良 みゆき」、スタイル抜群・文武両道完璧超人的なお嬢様でもう1人はかがみの妹の「柊つかさ」、なお睦月が最初、名前を聞いた時、ディケイドに変身する土を思い浮かべた。

こなた「いやいや、そう言う2人も仲が良いじゃん」

つかさ「あう／＼／」

みゆき「あらあら」

今だにかがみに抱き付いてるこなたの言った事につかさは顔を真っ赤にして、みゆきは頬に手を当てて微笑んではいるがその頬はうっすら赤くなっていた。

睦月「（…ホントここって百合カップルが多いな…）」

んがゝ！と吼えてようやくこなたを引き離して今だ赤い顔で説教するかがみとそれを見る2人に睦月は心の中で呟く。

なお、睦月の言う通り、4人共お互いに付き合ってる…まあ、こなたとかがみの場合は2人をそれぞれ狙ってるのがいるが…

そんな日常を過ごして行き、苦勞しているが謳歌している睦月は再び戦士になる。

剣崎達が私立星鐵学院高等学校の文化祭でアンデッドを封印した翌日

睦月「（ふう〜）」

私服で街中を歩いている睦月は昨日、呼び出されてカズマから聞いた『ディケイドの世界』のアンデッドが開放された事のため息を吐く。

今現在、アンデッドを封印出来るライダーはブレイドを除き、ギャレンとレンゲルは自分達の使っていたバツクルが壊れていて修理中で現代変身不可能、カリス自体はカードがあれば出来るが剣崎がもしもの時に何かあったら駄目だと反対してるので無理、ディケイドの世界にあるバツクルがあれば良かったがギャレンバツクルとカリスバツクルはアンデッドが開放された際に壊れてしまい修理中、レンゲルバツクルは今現在、エレファントアンデッドとカテゴリーAを封印した際に？スートだけを取ってその場を去ったタイガーアンデッドが持っている。

睦月にとって、タイガーアンデッドは自分を成長させてくれた1人である為、あんまり戦いたくない相手でもある。

どうしようかと考え込んでいた時…

睦月「…ん？」

睦月の目に人波の中で見覚えのある人物を見つけ、目を開いた後、その人物を追いかける。

「…あれ？」

「…2「…どうしたのゆたか？」

そんな睦月を発見したのはこなたの従妹『小早川 ゆたか』で、そんな彼女に話しかけたのはその親友兼恋人な『岩崎 みなみ』である。

ゆたか「さつき上条先輩が強張った顔で走ってたのが見えたんだ」

????3「マジっスか？」

????4「何かありそうデスネ」

みなみに答えたゆたかの後に彼女達と一緒にいた親友の『田村ひより』と『パトリシア』マーティン』がそれぞれ言う。

睦月「（確かこっち方向に来ていた筈だけど…）」

追いかけて誰もいないビルに入った睦月だったが追いかけていた人物の姿が見当たらない。

睦月「確かにこっちに来てこのビルに入っと思ったんだけど…」

間違えたか…と睦月がそう考えた時…

????「きゃあああああああ！……！！！！！！」

睦月の耳に聞き覚えのある悲鳴が入った。

悲鳴が聞こえる2分前

ひより「うわぁ…不気味っスね…」

ゆたか「怖いよ…」

みなみ「大丈夫、ゆたかは私が守る」

ゆたか「みなみちゃん…」

みなみ「ゆたか…」

ひよりが呟いた後に体を震わせるゆたかにみなみが抱き寄せてそう良い、2人のフィールドを作る。

それにパティは相変わらずラブラブデスネ〜と言って温かい目で見て、ひよりははいちゃったよとため息を付いた後に周りを見て…

ひより「ん？…ちょっとちょっと3人とも」

目に入った光景にひよりは3人を呼び、手招きする。

ゆたか「どうしたの？田村さん？」

ひより「あれあれ」

代表で聞くゆたかにひよりが指した方を見ると…ふらふらと歩く女性性があった。

みなみ「…何で女の人が此処に？」

パティ「もしかして幽霊スポットマニアじゃないデスカ？」

ひより「いやいや、流石にそれはないでしょ（汗）まあ…もしかしたら上条先輩と会ってるかもしれないし話しかけて見るか…おいそこの人」

そう言つて女性に駆け寄るひよりに声をかけられた女性はひよりの方に顔を向け…笑う。

それに駆け寄ろうとするひよりは背筋に悪寒が走り、止まった瞬間、女性は姿を異形へと変えた。

ひより「ひっ！」

ゆたか「きゃあああああああ！！！！！！！！」

蘭の祖にして？スートのカテゴリーQたる上級アンデッド『オーキッドアンデッド』にひよりは後ずさり、ゆたかは悲鳴をあげる。

パティ「逃げましょう！」

近寄つて来るオーキッドアンデッドにパティがひよりの腕を掴んだ後にみなみもゆたかの手を握り逃げる。

それにオーキッドアンデッドも走つて4人を追いかける。

ひより「なんなんっスかあれ！！」

パティ「けど、ワタシ、どこかあの怪人を見た覚えがありマース…けど何でしたっけ？」

落ち着いた後にパティと平行して走りながら後ろを見て叫ぶひよりにパティがそういった後に首を捻る。

ゆたか「そつ、そう言えばお姉ちゃんが買った本に後ろにいる人が書かれていた様な…確か『仮面ライダー』という名の仮面』だったけ？」

パティ「おお、それデス！！後ろにいるのは確かそれに出るアンデッドデス！」

みなみ「けど…何で本の怪人が存在するの？」

ゆたかの言った事にパティは両手をパンとさせた後に叫び、みなみが疑問を呟いた。

その時

ガッ！

ゆたか「あうっ！」

みなみ「ゆたか！」

躓いてこけたゆたかにみなみは慌てて止まり、起き上がらせた時に2人の後ろにオーキッドアンドレッドが迫り、腕を振り下ろそうとした時…

????「おりゃああああ！！！」

バキッ！！

オーキッドアンドッドとみなみとゆたかの間に誰かが割って入り、手に持っていた鉄の棒でオーキッドアンドッドを殴る。

それに大したダメージは行っていないがオーキッドアンドッドが怯んで逃げる時間が出る。

???「早く逃げるんだ！」

ゆたか「上条先輩…はい！」

みなみ「ゆたか早く！」

割って入った人物、睦月は2人にそう言い、ゆたかとみなみはパティとひよりがいる場所へ向かう。

パティ「大丈夫デスカゆたか？」

ゆたか「うん、こけた以外はなんともないよ」

ひより「良かった」

みなみ「けれど上条先輩が…」

自分達の所に来て安否を聞くパティにゆたかはそう言い、ひよりは安堵の息を吐いた後にみなみがオーキッドアンドッドと戦う睦月を見る。

例えばライダーであつた睦月でも流石に生身では上手く戦えずに押さ

れていた。

今もオーキッドアンデッドの攻撃を防いだり避けるしか手がなかった

睦月「（くそっ、やっぱり強い！）」

バキッ！

顔を歪めて心の中で呟いた後についに睦月の持っていた鉄の棒は睦月の手から弾き飛ばされ、睦月は避けるしか出来ない。

そして…追い詰められて御仕舞いと思われた時…

バキッ！

睦月とオーキッドアンデッドの間に何者かが入り、オーキッドアンデッドを攻撃して離れたのは…

睦月「城さん…」

その言葉に虎の祖であるアンデッド『タイガーアンデッド』は振り向いた後に人間の姿…睦月にとっては懐かしい『城 光』になると睦月と向き合う。

光「初めまして…と言えば良いだろうなこの時は」

睦月「そうですね…なぜ俺を？」

その言葉に光はある物を取り出し、睦月に渡す。

睦月「これは…レンゲルバックルに？Aから？」までの？スート！？」

睦月は渡された物に驚きの声を上げた後に光を見るが、起き上がるオーキッドアンデッドを見て、睦月は光の脇を通り抜けてレンゲルバックルに？Aを装填、腰に持つて行くと、ベルト『シャッフルラップ』が出て、腰に装着される。

その後に睦月は腕を顔の前で交差し、ゆっくりとオーキッドアンデッドを見て、叫ぶ。

睦月「変身！！」

レンゲルバックル「オープン アップ」

掛け声とともにバックル部『ミスリルゲート』を開く事で、レンゲルバックルからの音声とともにレンゲルクロスを分解した光のゲート『スピリチアエLEMENT』が睦月の前面に放出され、ELEMENTを睦月は通り抜ける事で再び戦士となった。

ひより「あれって…」

パティ「oh！仮面ライダーレンゲルです」

緑色のスーツに仮面に緑色の蜘蛛に紫の瞳、スーツの上に胸の？を象った金の鎧を纏いし仮面の戦士『仮面ライダーレンゲル』はレンゲルラウザーを持ってオーキッドアンデッドに構える。

レンゲル「うおおおおお！！！！」

気合を入れる為に叫んだ後、レンゲルはオーキッドアンデッドに向かって走る。

オーキッドアンデッドの攻撃を避けた後にラウズカード『?2・スタップビー』を先端部の刃『クロバー・エッジ』とは逆サイドに設けられたスラッシュ・リーダーにラウズする。

レンゲルラウザー「スタップ」

その音声の後にカードの幻影が現れ、レンゲルラウザーに吸収された後に刺突攻撃『ビースタップ』をオーキッドアンデッドに当てる。

レンゲルラウザー「スクリュー！バイト！バイトスクリュー」

続いて『?3・スクリューモール』と『?5・バイトコブラ』をラウズした後にレンゲルに吸収され、レンゲルは起き上がるうとする
オーキッドアンデッドにアッパー気味にコークスクリューパンチ『モールスクリュー』を放った後に飛び上がってクロスキック『コブラバイト』を炸裂させる。

パティ「凄過ぎデース」

ひより「夢じゃないツスよね？」

みなみ「うつん…夢じゃない…」

ゆたか「うん、現実だよ」

隠れて目を輝かせるパティにひよりは呆然と呟き、みなみは否定してゆたかが肯定する。

連続攻撃を食らい立ち上がるのに手間取ってるオーキッドアンデッドにレンゲルは『?・J・フュージョンエレファント』をラウズする。

レンゲルラウザー「フュージョン」

それによりレンゲルラウザーのAPがチャージされ、レンゲルは必殺技を発動する為のラウズカードを3枚取り出してラウズする。

レンゲルラウザー「ラッシュ」

『?4・ラッシュ』をラウズすると封印されていたライノセラスアンデッドが突進し…

レンゲルラウザー「ブリザード」

次に『?6・ブリザード』をラウズすると封印されていたポーラーベアアンデッドが吹雪を起こし…

レンゲルラウザー「ポイズン」

最後に『?8・ポイズン』をラウズすると封印されていたスコピオンアンデッドが毒を生成して針を突き出す。

レンゲルラウザー「ブリザードベノム」

その音声の後にカードの幻影が現れ、レンゲルに吸収される。

起き上がった瞬間のオーキッドアンデッドにレンゲルは駆け出し、冷気を伴ったレンゲルラウザーを突き立て相手を氷漬けにし、さら

に猛毒を注ぎ込む『ブリザードベノム』を炸裂させた。

それを受けたオーキッドアンドッドは吹き飛ばされて地面に倒れると呻き声を上げ、その後にアンドッドバツクルが展開される。

レンゲルは何も描かれてないカード『コモンブランク』を取り出し、それをオーキッドアンドッドのアンドッドバツクルに向けて投げ、オーキッドアンドッドのアンドッドバツクルに刺さる。

シューイイーン

オーキッドアンドッドはカードに吸収、封印されてスーツがないただアンドッドが封印されただけのカード『ワイルドベスタ』となると風を切る音を出しながらレンゲルの手に戻る。

レンゲル「（剣立さんから聞いたアンドッドの数はこれで後、この人を入れて5体…）」

封印されたワイルドベスタを見た後にレンゲルは目の前に立つ光を見る。

レンゲル「…行つて下さい」

ひより「えっ？」

パティ「what？」

レンゲルから放たれた言葉に光は眉を潜め、隠れていたひより達は驚く。

レンゲル「俺は…本人じゃないとはいえ…あなたや嶋さん…カテゴリーキングに助けられた…だから…」

光「……変わった男だ…」

レンゲルの言葉にそう言うと言はタイガーアンデッドに姿を変え…

タイガーアンデッド「選別だ…あちらで作られていたのをそれと一緒にくすねた物だ」

レンゲルバックルを指してそう言った後、それをレンゲルに向けて投げ、レンゲルがそれを受け取ると同時にタイガーアンデッドはビルから飛び降りる。

レンゲル「これは…ラウズアブゾーバー!？」

渡された物にレンゲルは驚く。

しかも驚くべき事にその色はレンゲルと同じ色であった。

レンゲル「（これは…俺の…）」
レンゲル

パティ「あゝ」

ひより「上条せんぱい」

ラウズアブゾーバーに目を取られていたレンゲルは横を見て何時の間にか近寄っていたパティとひよりに彼女達の後ろにいるゆたかのみなみに気づく。

パティ「よければ詳しく…」

ひより「教えてくださいっス！」

みなみ&ゆたか「お願いします！」

ずっと近寄るパティとひよりに頭を下げるみなみとゆたかにレンゲルは頭を掻いた。

N E X T

サイドエース1：再誕の緑氷の槍騎士（後書き）

次回『ミッシングエース5：新たなケンプファー』

運命の切札を掴み取れ！！

ミッシングエース5：新たなケンプファー
(前書き)

士「5話目で赤と青とは別の勢力の登場だ」

タクミ「さらにね…」

シンジ「見てからのお楽しみ!!」

ミッシングエース5：新たなケンプファー

正体を明かした後、剣崎達は途中で合流した橘と睦月、虎太郎と共にナツル達と共にいた。

ちなみに雫のアドバイザーの『カンデンヤマネコ』に水琴のアドバイザーのチツソクノライヌもいる。

雫「そう言う事…」

水琴「ほっ、ホントにあっただ…」

紅音「驚きです…」

ナツル「俺達の知らない内に世界の危機が起こってたなんて…」

剣崎達から語られた事に4人のケンプファー達はそれぞれ驚きを表していた。

睦月「それにしても剣崎さん…残る剣立さんの方のアンデッドは6体で…」

剣崎「ああ、その内、？のQであるタイガーアンデッドがレンゲルバツクルを持っている」

睦月の言いたい事に剣崎はそう言う。

それに睦月は顔を伏せる。

橘「睦月、例え同じ存在でも性格は同じとは限りないんだ…覚悟するんだ」

睦月「分かってます。分かってますけど…」

橘の言葉に睦月は手を握り締める。

水琴「何であの虎の怪人に肩を持ってるの？」

ナツル「ああ、レンゲルの1つの成長を促した存在の1人だからだよ」

ナツルに近づいて聞く水琴にナツルは読んだ内容を思い出して言う。

真司「まっ、そんな訳で俺達の事と君達の事は分かったな」

雫「そうね…此処はお互いにアンデッドと出会ったら共に戦い、もし私達だけの時に現れたら連絡するわ」

橘「それが良いな…後、言って置く事がある。特に剣崎達にだ…」

真司の締め括りの後に雫がそう提案し、それに橘が同意した後にある事を話し、それに剣崎達は驚く。

次の日の夜、剣崎は昨日橘が話した事を考えながら買い物袋を持って歩いていた。

剣崎「（新世代ライダーシステムの強奪…）」

橋が言うにアンデッドサーチャーが破壊された同日、監視カメラを通り抜け、もしもの事があった時の為に人工アンデッドであるケルベロスの力を3つに分けて開発した3機のライダーシステムが盗まれたのだ。

剣崎「（何の為にライダーシステムを…）」

顎に手を当てて剣崎が考えていた時…

剣崎「！」

自分に向かって来た殺気にその場を前へ飛び去ると剣崎がいた場所に攻撃が走る。

剣崎「変身！」

ブレイバツクル「ターンアップ」

着地すると同時にブレイドへ変身するとブレイラウザーを構える。

現れたのは…

ブレイド「パラドキサアンデッド！」

パラドックスカレハカマキリの祖にして？のカテゴリークのアンデッド『パラドキサアンデッド』はブレイドを見る。

ラウズアブゾーバー「FUSION JACK」

パロドキサアンデッドにブレイドはジャックフォームに強化変身すると強化変形したブレイラウザーを構える。

真空波を飛ばして来たパロドキサアンデッドの攻撃を避けてブレイラウザーで攻撃して、パロドキサアンデッドの鎌に防がれる。

ブレイドJF「やはりあの時も戦ったが強い…！」

ぶつかり合う中でブレイドJFは仮面の中で眉を潜める。

剣崎はかつて、土と共に旅した中で目の前にいるパロドキサアンデッドと戦った事がある。

押されたがその後にカズマと土が倒したので勝てたが、今度は1人なのでそうは行かない。

ブレイドJFは攻撃を避けながら機会を伺い…

ブレイドJF「そこだ！」

隙を見つけて、ブレイラウザーでパロドキサアンデッドを切り裂く。

連続で斬った後にブレイドJFが決めようとした瞬間、パロドキサアンデッドは逃げる。

ブレイドJF「待て！」

それをブレイドJFは飛んで追いかける。

逃げるパラドキサアンデッドを追走するブレイドJF、そんな彼に水色の火球が飛んで来る。

ブレイドJF「うわっ！」

それに気づいたブレイドJFは慌てて避ける。

避けた後にブレイドJFはパラドキサアンデッドの方を見るが姿はもうなかった。

ブレイドJF「逃げられたか…けれどさっきの炎は誰が…」

今封印が解かれた上級アンデッドでブレイドJFを攻撃して来た水色の火球を出す者はいない。

考えていたブレイドJFはナツル達が脳裏を過ぎ、もしかしたらと考える…

???「良く避けたね」

その言葉と共にブレイドJFは声のした方を見ると…4人の少女が立っていた。

ブレイドJF「やはりケンプファーか…」

ブレイラウザーを構えてブレイドJFは4人の少女を見て呟く。

警戒するのはさっきの攻撃からして自分と話す以外に何かあると考えてである。

少女↓瞳美「初めまして仮面ライダーブレイド、僕は皆川 瞳美、聞いてた通りの人だね」

緑髪の少女が前に出て自分を紹介する。

少女2↓理香「あたしは植田 理香！よろしくね！」

他のメンバーより小さいピンクの切りそろえた髪をツーサイドアップの少女が名乗る。

少女3↓沙也香「しかたないから名乗ってあげるわ。わたしは中尾 沙也香よ。別にあなたが相手だから名乗るんじゃないからね」

続いて金髪の少女がそっぽ向いて言う。

少女4↓涼花「山川 涼花、涼しい顔で血の花を咲かせると書いて涼花」

オドオドしながらも物騒な事を言って大人びた外見の女の子は名乗る。

ブレイドJF「君達は何色のケンプファーだ？なぜアンデッドを逃がしたんだ？」

瞳美「そうだね。後者のを先に答えるなら協力者から頼まれて、そして前者のを答えるならこれさ」

ブレイドJFの問いに瞳美はそう答えた後に4人は右手首の誓約の腕輪を見せる。

月明かりに照らされて光る腕輪は…白かった。

ブレイドJF「白の…腕輪!？」

見せられた腕輪にブレイドJFは驚く。

ケンプファアの腕輪の色は青と赤、それ以外にないのをブレイドJFは聞いている。

だが、今見せられた腕輪の色は白な事にブレイドが驚いていると瞳美が口を開く。

瞳美「驚いてるでしょ、理由は赤と青が決着を付けないから調停者モデレーターが僕達の色を作った訳だよ」

理香「今こうしてあなたに挨拶する前に瀬能ちゃん達とも挨拶をね」

ブレイドJF「ナツル達とも出会っていたのか」

沙也香「別に理香以外のわたし達は会ってないわよ」

涼花「それにあなたがいて貰っては困るので死の花を咲かして退場欲しいんです」

理香の言葉にブレイドJFはそう言つと沙也香がそっぽ向いたまま言い、涼花がまた物騒な事を言う。

ブレイドJF「悪いけど、俺は君達に構ってる暇はないんだ!」

瞳美「まあ、話す以外にこれの先輩でもあるあなたと話すのと同時に戦って置こうと思ってるね…」

飛び出そうとするブレイドJFに瞳美が言つと4人はそれぞれ瞳美が緑、理香がピンク、沙也香が黄色、涼花が赤の同じのを取り出すとそれにカードを装填し、腰に装着させる。

ブレイドJF「！？それは！」

4人が装着した奴の内、瞳美、沙也香、涼花の装着したそれにブレイドJFは驚く。

3人が装着したそれは橘が言っていた盗まれた新世代ライダーシステムであつた。

4人「変身！」

バックル「オープンアップ」

ブレイドJFが驚いてる間に4人は叫び、バックル部 ミスリルゲートを開き、光のゲート・オリハルコンエレメントが4人の前面に放出され、エレメントが自動的にそれぞれ通過する。

沙也香が変身するのはブレイドJFが橘から聞いた新世代ライダーのリーダー的役割を持つ『仮面ライダーグレイブ』

涼花が変身するのはそんなグレイブををやや簡略化した赤いライダー『仮面ライダールク』

瞳美が変身するのはラルクの色違いで緑色のライダー『仮面ライダー

「ランス」

そして理香が変身するのはグレイブに似てるがピンク色で肩部分が狼となっているライダーであった。

ブレイドJF「なぜ君達がライダーシステムを！？それにそのライダーは！？」

ランス「彼女が変身してるライダーは『仮面ライダーオルトス』…協力者が作り、僕達が使うカードにあるケルベロスの弟『オルトロス』を元にしたカードを使って変身したライダーさ」

オルトス「ホントは私の本来の武器は別なだけどね…カリスって奴を元にしたんだってさ」

ブレイドJFの問いにランスはオルトスの肩を叩き、オルトスが不満げに言う。

オルトスの言葉にブレイドは揃えたのかと心の中で思った。

橋から聞いたグレイブ達新世代ライダーはブレイド達旧世代のライダー達のデータをフィードバックしている。

フィードバックされてるのでグレイブはブレイド、ランスはレンゲル、ラルクは武器は違うがギャレンと言う風にされている。

彼女の言葉通りならオルトスはカリスのをフィードバックしているのが分かった。

ランス「そうそう、お近づきにこれを…」

考えてるブレイドJFにランスはあるカードを取り出すとそれをブレイドJFに投げる。

投げ渡されたカードを受け取ったブレイドJFはそれを見て驚く。

ブレイドJF「?のキング!？」

オルトス「何か同じスートの奴と一緒に他のと違ってあんまり暴れないから封印させて貰ったんだよね」

ラルク「わたし達のライダーでの戦いに慣れさせて貰う為にやらせて貰いました」

ラウズカードを見て驚くブレイドJFにオルトスとラルクがそう言う。

グレイブ「と言う訳で倒させて貰うわ」

グレイブが醒剣グレイブラウザーの切っ先をブレイドJFに向けて言うと4人の新世代ライダーがブレイドJFに襲い掛かる。

先方で来たグレイブラウザーを構えたグレイブと醒杖ランスラウザーを構えたランスの攻撃をブレイドJFは掃いた後に飛び上がる。

ラルク「逃がしません」

オルトス「逃がさないよ」

そこをボウガン型のカードリーダー、醒銃ラルクラウザーとカリス

のカリスアローを模した弓型カードリーダー、醒弓オルトスラウザーを構えるとフォースアローを放つ。

オルトスの攻撃を防いだがラルクの攻撃に当たり、地面に着地する。

ランス「流石のあなたでも僕達4人を相手には難しいでしょ？」

オルトス「応援は期待しない方がよいよ。協力者が他のライダーを邪魔してるから」

グレイブ「さつさと倒されたら？」

ブレイドJF「悪いけど…俺は負けないよ…」

ランス、オルトス、グレイブの言葉にブレイドJFは3枚のAのカードとリモートのカードを取り出して、3枚のカードを前方に投げ、リモートをラウズする。

ブレイラウザー「リモート」

その音声と共に光が放たれ、3枚のAはそれぞれ、アンデッドライダー（水琴命名）のギャレン、カリス、レンゲルに変わる。

オルトス「ありゃあ!？」

ランス「まさかアンデッドを解放するのは聞いてたけど…ライダーを出すとはね…」

それにオルトスは驚き、ランスも驚きの感情を声に出している。

ブレイドJF「これで4対4だ」

ギャレン達と並んでブレイドJFがそう言った後、ブレイドJFが3人にラウズカードを渡すとそれぞれ、自分達を元に作られた者達へと向かう。

グレイブ「はっ！」

来た斬撃にブレイドJFは後ろ宙返りをして避け、すかさずブレイドJFを振ってつばぜり合いに持ち込む。

ラルク「えい！」

ギャレン「ふっ！」

一方ではラルクとギャレンが撃ちあいし、カリスとオルトスも同じ様に矢を放っている。

ランスもレンゲルとぶつかり合っているがブレイドJF達が新世代ライダーズを押していた。

グレイブ「なぜわたし達が押されるの!？」

ありえないと言う心が詰まった言葉を叫ぶグレイブにブレイドJFは吹っ飛ばした後に言う。

ブレイドJF「例え新世代といえ、君達はライダーの戦いにまだ慣れてないし1対1じゃ俺達は負けない！」

ランス「確かにそうだね…今回は此処までかな」

レンゲルと戦っていたランスはそう呟いた後にオルトスとラルクがグレイブと合流し、最後に来たランスが1枚のカードをラウズする。
ランスラウザー「フラッシュ！」

その音声の後に眩い光が放たれ、それにブレイド達は目を守り、収まった後に手を退かすと4人の姿がなかった。

ブレイドJF「……白のケンプファー…厄介だな」

カードとなったアンデッドライダーのカードを持った後に彼女達に渡されたKのカードを見る。

ブレイドJF「協力者…一体何者なんだ…」

虚空を見上げ、ブレイドJFは呟く。

残るアンデッド4体

N E X T

ミッシングエース5：新たなケンプファー（後書き）

次回『ミッシングエース6：ブレイド&レンゲルVS新世代ライダーズ』

運命の切札を掴み取れ！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8773x/>

仮面ライダーブレイド～蒼雷の剣士とけんぷファー～

2011年11月12日17時37分発行